



令和 6(2024)年度 東筑紫短期大学 教員情報

【食物栄養学科】

ナカオカ ヒロシ

中岡 寛

NAKAOKA Hiroshi 教授・学長補佐（教学担当）

所属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担当科目	【食物栄養学科】 ・栄養学総論 ・栄養学各論 ・解剖生理学実験 ・生化学実験
専門分野	■ 栄養学
最終学歴	長崎大学大学院 海洋生産科学研究科 修士課程
学位	修士（水産学）
職歴	東筑紫短期大学 食物栄養学科 講師 (昭和 61(1986)年 4 月～平成 6(1994)年 3 月) 東筑紫短期大学 食物栄養学科 助教授 (平成 6(1994)年 4 月～平成 17(2005)年 3 月) 東筑紫短期大学 教務部 企画広報課長 (平成 10(1998)年 4 月～平成 31(2019)年 3 月) 九州栄養福祉大学 教務部 企画広報課長 (平成 13(2001)年 4 月～平成 31(2019)年 3 月) 東筑紫短期大学 食物栄養学科 教授 (平成 17(2005)年 4 月～現在に至る) 学校法人東筑紫学園 評議員 (平成 20(2008)年 6 月～現在に至る) 東筑紫短期大学 教務部長 (平成 23(2011)年 4 月～平成 29(2017)年 3 月) 九州栄養福祉大学 教務部長 (平成 26(2014)年 4 月～平成 29(2017)年 3 月) 九州栄養福祉大学 学長補佐（教学担当） (平成 29(2017)年 4 月～現在に至る) 東筑紫短期大学 学長補佐（教学担当） (平成 29(2017)年 4 月～現在に至る) 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 IR 推進本部長 (令和 4(2022)年 4 月～現在に至る) 学校法人東筑紫学園 理事 (令和 4(2022)年 5 月～現在に至る)
主な研究活動	【論文】 1. “Effect of Polysaccharide from a Yeast - Like Fungus on Lactic Acid Fermentation” (英文) 「乳酸発酵に及ぼす酵母様かび産生多糖の影響」 (東筑紫短期大学研究紀要 第 33 号 平成 14(2002)年 12 月) (概要) The effect of β -glucan, a kind of extracellular water-soluble polysaccharide produced by the yeast-like fungus Aureobacidium pullulans ATCC 20524, on the growth of Lactococcus lactis subsp. Lactis 527 and the lactic acid fermentation in skim milk culture media was examined. It was found that β -glucan promoted the lactic acid fermentation during logarithmic growth phase period in the skim milk culture media at 30°C. Above effect had positive relationship with increase in the amount of added β -glucan in skim milk culture media, and this effect got more striking in the presence of high amount of β -glucan. 2. “Effect of Polysaccharide from a Yeast - Like Fungus on Physical Properties of Acid Milk Curd” (英文) 「ミルク酸カードの物性に及ぼす酵母様かび産生多糖の影響」 (東筑紫短期大学研究紀要 第 34 号 平成 15(2003)年 12 月) (総説) The effect of β -glucan, a kind of extracellular water-soluble polysaccharide produced by the yeast-like fungus Aureobacidium pullulans ATCC 20524, on the physical properties of acid milk curd was examined. The curd was formed by the growth of Lactococcus lactis 527. It was found from the results obtained that β -glucan decreased the clotting time of milk curd



formation. But, the effect of β -glucan on the physical properties, namely, hardness, breaking energy, and elastic modulus, respectively, of acid milk curd was undesirable on account of the formation of soft curd.

3. “Characteristics of Vienna Sausage Manufactured by Adding Polysaccharide from the Yeast - Like Fungus” (英文)

「酵母様カビ産生多糖を添加したウィナーソーセージの性状」

(東筑紫短期大学研究紀要 第35号 平成16(2004)年12月)

(総説)

The effect of β -glucan, a kind of extracellular water-soluble polysaccharide produced from the yeast-like fungus *Aureobacidium pullulans* ATCC 20524, on the characteristics of Vienna sausage was examined. It was found from results obtained that polysaccharide from the yeast-like fungus had no influence on the bacterial growth, VBN, TBA of Vienna sausage during cold storage, whereas the desirable values were earned by the estimation of physical properties and the organoleptic test.

受賞歴

全国栄養士養成施設協会会長表彰

(平成22(2010)年11月)

所 属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担 当 科 目	<p>[食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータリテラシー ・情報処理学演習Ⅱ ・医療事務概論 ・医療秘書実務 ・診療報酬請求事務Ⅰ、診療報酬請求事務Ⅱ ・医療秘書実務実習
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 情報処理学 ■ 医療秘書学
最 終 学 歴	九州工業大学大学院工学府 先端機能システム工学専攻 博士後期課程修了
学 位	博士 (工学)
職 歴	<ul style="list-style-type: none"> ○コマック株式会社 (現 株式会社アステム) (昭和 60(1985)年 11 月～平成 11(1999)年 3 月) ○医療法人 聖亮会 聖ヨハネ病院 事務長 (平成 11(1999)年 4 月～平成 13(2001)年 3 月) 東筑紫短期大学 食物栄養学科 講師 (平成 13(2001)年 4 月～平成 22(2010)年 3 月) 東筑紫短期大学 学生部就職指導課 主事 (平成 19(2007)年 4 月～平成 26(2014)年 3 月) 東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授 (平成 22(2010)年 4 月～平成 29(2017)年 3 月) 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 学生部学生指導課 課長 (平成 26(2014)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月) 東筑紫短期大学 食物栄養学科 教授 (平成 29(2017)年 4 月～現在に至る) 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 学生部就職指導課 課長 (平成 30(2018)年 4 月～平成 31(2019)年 3 月) 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 学生部 次長 (平成 30(2018)年 4 月～令和 2(2019)年 3 月) 九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 学生部長 (令和 2(2020)年 4 月～現在に至る) 学校法人東筑紫学園 評議員 (令和 3(2021)年 4 月～現在に至る)
教育上の業績	<p>日本医療福祉実務教育協会にて医療秘書実務士養成に携わる教職員を対象に「e-Learning 勉強会」を実施。(平成 18(2006)年 10 月、平成 20(2008)年 9 月、令和元(2019)年 9 月)</p> <p>日商 PC 検定をはじめ、診療報酬請求事務能力認定試験、フードスペシャリスト資格認定試験等、学生が受験する各種資格試験対策として、Web ベースの e-Learning を構築した。(平成 19(2007)年 2 月～平成 29 年度より短期大学基準協会の評価委員を拝命し、評価チームの一員として会員校の認証評価業務に携わっている。(平成 29(2017)年 4 月～)</p>
主な研究活動	<p>【著書】</p> <p>「病院事務のための医療事務総論/医療秘書実務」建帛社 (平成 29(2017)年 4 月)</p> <p>(概要)</p> <p>本書は、日本医療福祉実務教育協会が認定する「医療秘書実務士」養成の趣旨に沿って、基本的に理解しておかなければならない内容を実務に重点を置き、その内容を体系的にとらえ、実践に即応できるテキストとなっている。(編著者：有吉澄江、沖山圭子、著者：岩崎充孝、上田知美、小辻一己、小松仁美、藤堂隆司、中川雅登、萩原勇人。執筆ページ：pp201-208。)</p> <p>【研究紀要】</p> <p>1. 「Web アプリケーションによる就職支援システムの構築 3 —Web アプリケーション開発ツール Wagby R7 への対応—」 (東筑紫短期大学研究紀要 第 45 号、平成 26(2014)年 12 月)</p> <p>(概要)</p> <p>平成 26 年 1 月に Wagby が R6 から R7 へとメジャーアップデートされ、開発環境が大幅に刷新された。本稿では、就職支援システムの更なる充実を図るため実施した Wagby R7 への対応とともに、Wagby R7 を用いて構築した本システムへの追加機能について紹介している。 (萩原勇人、矢野正人、赤松貴文：pp 153-167。)</p> <p>2. 「オープンソース・ソフトウェア活用事例 11 —LEAF BeringuClibc を用いたファイアウォールの構築—」 (東筑紫短期大学研究紀要 第 45 号、平成 26(2014)年 12 月)</p> <p>(概要)</p> <p>本稿では、LEAF BeringuClibc を用いて構築したファイアウォールの概要について述べている。LEAF BeringuClibc は現在も活発に開発が継続されている、ファイアウォール構築に適した Linux ディストリビューションであり、USB メモリからの起動にも対応している。LEAF BeringuClibc を採用したことで、安全性、安定性、拡張性の高いファイアウォールを構築することができた。 (萩原勇人、赤松貴文：pp169-180。)</p>



3. 「オープンソース・ソフトウェア活用事例 12

—ownCloud を用いたオンラインストレージの構築—

(東筑紫短期大学研究紀要 第 46 号、平成 27(2015)年 12 月)

(概要)

本稿では、多くの教職員、学生にとって有用であると予想される、学外からもアクセス可能なファイル共有サービスであるオンラインストレージサービスの構築について述べている。オンラインストレージサービスを活用することで、学内で作業したファイルに学外からアクセスできるようになるなど、業務効率や作業効率の大幅な向上が期待できる。(萩原真人、赤松貴文：pp147-160。)

4. 「オープンソース・ソフトウェア活用事例 13

—LEAF BeringuClbc 用ソフトウェアパッケージのビルド環境の構築—

(東筑紫短期大学研究紀要 第 47 号、平成 28(2016)年 12 月)

(概要)

本稿では、LEAF BeringuClbc 用ソフトウェアパッケージのビルド環境の構築について述べている。LEAF BeringuClbc にはソフトウェアパッケージのビルドする機能がないため、一般的な Linux ディストリビューションを用いてビルド環境を構築する必要がある。本研究は、CentOS 6.8 を用いて LEAF BeringuClbc5 用ソフトウェアパッケージのビルド環境を構築した。(萩原真人、赤松貴文：pp9-20。)

5. 「6 軸モーションセンサーを用いた包丁技術の可視化装置の検討

(中京学院大学中京短期大学部研究紀要 第 47 巻 第 1 号、平成 29(2017)年 3 月)

(概要)

本稿では、6 軸モーションセンサーを用いて包丁操作を記録・解析し、可視化する方法を検討した。包丁の柄と同程度の大きさのセンサーモジュールを作成し、包丁の刃側と柄側の動作を同時に記録できるように、2 個のセンサーを装着し実験を行った。キュウリの小口切り、人参と大根のイチョウ切り、大根の桂むきの動作を記録し、得られた信号を高速フーリエ変換 (FFT) にかかけ、比較を行った。いずれの操作においても、本機を利用することで、包丁操作の特徴を捉え、可視化できる可能性が示された。

(由良亮、浜野純、萩原真人、楠瀬千春：pp1-10。)

6. 「オープンソース・ソフトウェア活用事例 14

—LEAF BeringuClbc 用ソフトウェアパッケージのビルド環境の構築 2—

(東筑紫短期大学研究紀要 第 49 号、平成 30(2018)年 12 月)

(概要)

本稿では、前稿に引き続き、LEAF BeringuClbc 用ソフトウェアパッケージのビルド環境の構築について述べている。本研究は、CentOS 6.10 を用いて LEAF BeringuClbc5 用ソフトウェアパッケージのビルド環境を新たに構築した。また、LEAF BeringuClbc の機能向上を図るために 2 つのソフトウェアパッケージのビルドを行った。(萩原真人、赤松貴文：pp163-177。)

7. 「オープンソース・ソフトウェア活用事例 15

—Nextcloud を用いたセキュアなオンラインストレージの構築—

(東筑紫短期大学研究紀要 第 50 号、令和元(2019)年 12 月)

(概要)

本稿では、本学の教職員、学生向けのオンラインストレージの実運用に向け、セキュアなオンラインストレージの構築について述べている。以前構築した ownCloud を用いたオンラインストレージは、2 段階認証に対応していなかったため、セキュリティ面で不安が残った。今回は、Nextcloud を用いて Two Factor TOTP Provider アプリを導入することにより 2 段階認証を実現した。(萩原真人、赤松貴文：pp209-225。)

8. 「オープンソース・ソフトウェア活用事例 16

—デジタルサイネージの構築—

(東筑紫短期大学研究紀要 第 51 号、令和 2(2020)年 12 月)

(概要)

本稿では、従来の掲示板やポータルサイトの掲示機能などのプル型メディアによる情報発信を補完することを目的としたデジタルサイネージシステムの構築について述べている。デジタルサイネージは、テレビやラジオのようにユーザに対して受動的に情報を受け取ってもらうプッシュ型メディアである。一般的にプッシュ型メディアのシステム構築にかかる費用は高額となる場合が多いが、筆者らは費用対効果を高めることを目標にシステムの構築を進めた。

(萩原真人、赤松貴文、長田裕之、下田健太郎：pp139-152。)

【発表、論文等】

Touma, Y., Hagiwara, H., Asami, K. and Komori, M. : **Local Binary Feature Based on Census Transform for Mobile Robot**, Proc. of Joint 7th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 15th International Symposium on Advanced Intelligent Systems, pp.1192-1197, Kitakyushu, Dec., 4-5, 2014.

Daiki Kitayama, Yasufumi Touma, Hayato Hagiwara, Kenichi Asami and Mochimitsu Komori: **3D Map Construction Based on Structure from Motion Using Stereo Vision**, Proc. of The 4th International Conference on Informatics, Electronics & Vision, Paper#183, Kitakyushu, June 15-18, 2015.



	<p>Kaichiro Nakazato, Yasufumi Touma, <u>Hayato Hagiwara</u>, Kenichi Asami, Mochimitsu Komori: FPGA-based Stereo Vision System Using Census Transform for Autonomous Mobile Robot, Proc. of The 4th International Conference on Informatics, Electronics & Vision, Paper#182, Kitakyushu, June 15-18, 2015.</p> <p>Tsukasa Nakamura, Yasufumi Touma, <u>Hayato Hagiwara</u>, Kenichi Asami, Mochimitsu Komori: Scene Recognition Based on Gradient Feature for Autonomous Mobile Robot and Its FPGA Implementation, Proc. of The 4th International Conference on Informatics, Electronics & Vision, Paper#181, Kitakyushu, June 15-18, 2015.</p> <p><u>Hayato Hagiwara</u>, Yasufumi Touma, Kenichi Asami and Mochimitsu Komori: FPGA-Based Stereo Vision System Using Gradient Feature Correspondence, Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.27, No.6, pp.681-690, December 2015.</p> <p>「6軸モーションセンサーによる包丁操作の記録」(発表) 平成 29 年度 一般社団法人日本調理科学会 (平成 29(2017)年 8 月) (由良亮、浜野純、萩原勇人、楠瀬千春：日本調理科学会大会研究発表要旨集 29(0), 20, 2017、お茶の水女子大学、平成 29(2017)年 8 月 31-9 月 1 日。)</p> <p>「包丁操作時の学習者と熟練者の包丁運動データの比較」(発表) 平成 30 年度 一般社団法人日本調理科学会 (平成 30(2018)年 8 月) (由良亮、浜野純、萩原勇人、梅林千恵子、藤岡美香、山本麻衣、楠瀬千春：日本調理科学会大会研究発表要旨集 30(0), 1, 2018、武庫川女子大学、平成 30(2018)年 8 月 30-31 日。)</p> <p>「包丁操作時の学習者と熟練者の包丁運動データの比較」(論文) 食生活研究 39(6) (平成 31(2019)年) (由良亮、藤岡美香、山本麻衣、萩原勇人、梅林千恵子、浜野純、楠瀬千春：pp 338-357。)</p> <p>「キュウリ小口スライス包丁操作のモーションデータから得られる特徴量の機械学習による分類」(発表) 2019 年度 一般社団法人日本調理科学会 (令和元(2019)年 8 月) (由良亮、萩原勇人、梅林千恵子、浜野純、藤岡美香、山本麻衣、楠瀬千春：日本調理科学会大会研究発表要旨集 2019, 31, 2C-11, p.57、中村学園大学、令和元(2019)年 8 月 26-27 日。)</p> <p>「キュウリの小口スライス動作から見る包丁技術学習者と熟練者の動作の特徴」(発表) 日本食品科学工学会第 66 回大会 (令和元(2019)年 8 月) (由良亮、浜野純、萩原勇人、梅林千恵子、藤岡美香、山本麻衣、楠瀬千春：日本食品科学工学会大会講演集 66th, 203, 2019、藤女子大学、令和元(2019)年 8 月 29-31 日。)</p> <p>「包丁操作における特徴の見える化によるデータを活用した指導効果」(発表) 日本栄養学教育学会雑誌 4(Supplement) (令和元(2019)年 9 月) (山本麻衣、藤岡美香、楠瀬千春、萩原勇人、梅林千恵子、浜野純、由良亮：pp17。)</p> <p>「6軸モーションセンサーによる包丁操作データを活用した操作特徴の見える化」(発表) 日本栄養学教育学会雑誌 4(Supplement) (令和元年 9 月) (由良亮、藤岡美香、山本麻衣、萩原勇人、梅林千恵子、浜野純、楠瀬千春：pp16。)</p>
所属学会	<p>日本医療福祉実務教育協会 (e-Learning 教育・検定委員会 座長) (平成 18(2006)年～現在に至る)</p> <p>日本医療保険事務協会 (平成 16(2004)年～現在に至る)</p>

所 属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担 当 科 目	<p>[食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒の栄養指導 ・給食管理 ・給食管理実習Ⅱ ・栄養指導実習Ⅱ ・教職実践演習（栄養教諭） ・栄養教育実習事前・事後指導 ・栄養教育実習
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 栄養教諭養成に関する指導 ■ 食育・食に関する指導 ■ 児童生徒の食生活 ■ 集団給食における給食管理・衛生管理
最 終 学 歴	熊本女子大学（現：熊本県立大学） 文・家政学部 食物学科
学 位	学士（家政学）
職 歴	<p>中津・宇佐市立小・中学校 学校栄養職員（昭和51(1976)年4月～平成7(1995)年3月）</p> <p>豊後高田市立小・中学校 主任学校栄養職員（平成7(1995)年4月～平成17(2005)年3月）</p> <p>大分県教育庁体育保健課 指導主事（平成17(2005)年4月～平成20(2008)年3月）</p> <p>豊後高田市立真玉中学校 栄養教諭（平成20(2008)年4月～平成26(2014)年3月）</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授（平成26(2014)年4月～平成30(2018)年3月）</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 学科長・准教授（平成30(2018)年4月～平成31(2019)年3月）</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 学科長・教授（平成31(2019)年4月～現在に至る）</p>
教育上の業績	<p>1. 研究分野等の教育内容の充実にに向けた取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食生活等実態調査を大分県教育委員会として実施し、集計結果及びその分析をとりまとめた「児童・生徒の食生活等実態調査報告書」を作成する。また、この調査をもとに、食育推進の意識の醸成を図るとともに、食育の推進に努める。（平成17(2005)年～平成20(2008)年） ○食育基本法及び中央教育審議会答申の趣旨に基づき、食に関する指導の必要性や進め方、栄養教諭の関わりを示し、大分県における食に関する指導の指針となる「食に関する指導の手引」を作成するとともに、全国学校給食研究協議大会などの各種研究会において助言を行う。（平成20(2008)年～平成23(2011)年） ○食育基本法及び中央教育審議会答申の趣旨に基づき、食に関する指導の必要性や進め方、栄養教諭の関わりを示し、大分県における食に関する指導の指針となる「食に関する指導の手引」を作成するとともに、全国学校給食研究協議大会などの各種研究会において助言を行う。（平成20(2008)年～平成23(2011)年） ○大分県教育委員会において学校における食育の推進及び食に関する指導の充実にための「生きる力を育む食育推進事業」を企画・立案し、研究の方向性や内容、実施方法等について。指定地域・学校の指導に当たる。（平成17(2005)年～平成20(2008)年） ○文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実にに関する調査研究」マニュアル作成ワーキング委員を5年にわたり務め、全国の学校給食に携わる関係者にとって、学校給食衛生管理の指針となるマニュアル作成を行う。（平成20(2008)年～平成24(2012)年） ○栄養教諭に関する指導書（教科書）の作成 大学において栄養教諭を目指す学生や義務教育諸学校に勤務する栄養教諭のための指導書（教科書）「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」、「学校給食調理従事者研修マニュアル」、「よくわかる栄養教諭―食育の基礎知識 第二版―」を作成し、各研修会における講話や学生に対する講義において実践的な指導に努めている。（平成26(2014)年～平成29(2017)年） <p>2. 作成した教科書・教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「調理場における洗浄・消毒マニュアル part I」（共著）（文部科学省）（再掲）（平成21(2009)年） 食中毒防止の観点から、調理場における機器や器具の洗浄・消毒について、そのポイントを押さえて記述された教科書である。



- ・「調理場における洗浄・消毒マニュアル part II」(共著)(文部科学省)(再掲)(平成22(2010)年)
食中毒防止の観点から、調理場における施設設備の洗浄・消毒について、そのポイントを押さえて記述された教科書である。
- ・「調理技術&衛生管理マニュアル」(共著)(文部科学省)(学建書院)(再掲)(平成23(2011)年)
食中毒防止の観点及び調理技術の向上の観点から調理工程ごとに記述された教科書である。
- ・「学校給食調理従事者研修マニュアル」(共著)(文部科学省)(学建書院)(再掲)(平成24(2012)年)
「学校給食調理員の標準的研修プログラム」に準拠し、研修を担当する指導者のための教科書である。
- ・「学校給食施設設備の改善事例集」(共著)(文部科学省)(再掲)(平成25(2013)年)
衛生管理の改善の方法や改善事例を示した教科書である。
- ・「よくわかる栄養教諭一食育の基礎知識 第二版」(共著)(同文書院)(再掲)(平成28(2016)年)
栄養教諭、食育を学ぶ上で押さえておきたい重要ポイントについて記述された教科書である。
- ・「栄養教諭のための教育実践演習・栄養教育実習ノート」(共著)(学建書院)(再掲)(令和3(2021)年)
教職課程の「栄養教育実習事前・事後指導」及び「教職実践演習」の授業において、栄養教諭に求められる資質・能力を身に付ける上での基礎・基本を学ぶ教科書として活用できる書である。

3. 学会等における発表

- ・研究主題「食に関心をもち、自ら考え、健康を追求していく児童生徒の育成」
(第63回全国学校給食研究協議大会)(平成24(2012)年)
- ・「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証
ー各種マニュアルの活用を中心にー」
守田真里子 安倍ちか 太田裕美子 高田尚美 土谷政代 田中延子
(第15回日本給食経営管理学会学術総会)(令和元(2019)年11月)
- ・「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証(2)
ー各種マニュアル活用の検討ー」
高田尚美 安倍ちか 太田裕美子 土谷政代 田中延子 守田真里子
(第15回日本給食経営管理学会学術総会)(令和元(2019)年11月)
- ・「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証
～調理場運営(形態)方式等の相違から～」
太田裕美子 安倍ちか 高田尚美 土谷政代 守田真里子 田中延子
(第67回日本栄養改善学会学術総会)(令和2(2020)年9月)
- ・「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証
～職種による比較検討を通して～」
安倍ちか 太田裕美子 高田尚美 土谷政代 守田真里子 田中延子
(第67回日本栄養改善学会学術総会)(令和2(2020)年9月)
- ・「学校給食における食物アレルギー対応指針」が示された前後の食物アレルギー対応に関する比較検討
秋葉佳子 岸根美絵 田中広美 竹内佳代子 土谷政代 守田真里子 田中延子
(日本学校保健学会第68回学術会議)(令和4(2022)年11月)
- ・「学校給食における食物アレルギー対応指針」が示された後の食物アレルギー対応の実態
竹内佳代子 秋葉佳子 岸根美絵 田中広美 土谷政代 守田真里子 田中延子
(日本学校保健学会第68回学術会議)(令和4(2022)年11月)
- ・「学校給食における食物アレルギー対応指針」に基づいた食物アレルギー対応の現状と課題
岸根美枝、秋葉佳子、竹内佳代子、田中広美、土谷政代 守田真里子 田中延子
(日本学校保健学会第69回学術会議)(令和5(2023)年11月)

主な研究活動
(学会発表等)

1. 食生活に関する教育の実践研究

(概要)

児童生徒が「食の重要性」や「食を選択する力」を身につけ、食生活を改善できるよう児童生徒の食生活の実態を把握・分析し、学校・家庭・地域が連携した食に関する指導の研究実践。

2. 食育の推進に関する実践研究

(概要)

食育の推進充実のための方策として、幼稚園から中学校までの11年間を見通した組織的・計画的な食に関する指導体制の整備や児童生徒の望ましい食習慣の形成に向けた食に関する指導の在り方の研究。

3. 食物アレルギーをもつ児童生徒への個別指導における研究

(概要)

食物アレルギーをもつ児童生徒への学校給食における食事対応について、文部科学省の「学校のアレルギー疾患に対する取組ガイドライン」に基づき、「食物アレルギー対応マニュアル」を作成する。また、食物アレルギーをもつ児童生徒の個別指導及びその保護者への個別相談活動の取組。

4. 肥満及び痩身傾向にある児童生徒への個別指導における研究

(概要)

文部科学省の「学校給食摂取基準」に基づき、児童生徒の体格の評価や推定エネルギー必要量を算出し、個別の対応が必要な生徒に対しての個別の指導の在り方における研究実践。

5. スポーツをする児童生徒のための指導の在り方における研究

(概要)

野球部、柔道部、陸上部を中心に、スポーツ選手としての食事の留意点や試合前の食事、体調管理についての個別指導における研究実践、及びスポーツ栄養に配慮した調理講習会の講師を務める。

6. 学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究

(概要)

文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者マニュアル作成ワーキンググループ委員」として、学校給食における衛生管理の充実のための研究及びマニュアル作成を行う。

7. 栄養教諭が行う食に関する指導の在り方

—中央教育審議会答申および学習指導要領を踏まえて—

土谷政代（東筑紫短期大学研究紀要 第47号 平成28(2016)年12月）

(概要)

「中央教育審議会答申」や現行の「学習指導要領」を踏まえ、学校における食育の推進に向けて、推進・指導体制の望ましい在り方を示すとともに、各教科や領域において、栄養教諭の専門性を活用しながら学校教育活動全体で取り組む「食に関する指導」の在り方を示した。

8. 「集団給食における衛生管理の考え方

—大量調理の特性および学校給食衛生管理基準の観点から—

土谷政代・光本琴美（東筑紫短期大学研究紀要 第48号 平成29(2017)年12月）

(概要)

大量調理の特性や「学校給食衛生管理基準」を基に、集団給食における衛生管理の考え方についてハード面、ソフト面の両方から衛生管理のステップを踏まえて記述したもの。

9. 「新学習指導要領における食に関する指導

—学習指導要領改訂の趣旨を踏まえて—

土谷政代（東筑紫短期大学研究紀要 第49号 平成30(2018)年12月）

(概要)

学習指導要領改訂の趣旨を踏まえて、新学習指導要領（平成29年3月告示）における食に関する指導の位置づけや栄養教諭等の専門性の活用の仕方について記述したもの。

10. 「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証

—各種マニュアルの活用を中心に—

守田真里子 安倍ちか 太田裕美子 高田尚美 土谷政代 田中延子

（第15回日本給食経営管理科学術総会 示説発表）（令和元(2019)年11月）

(概要)

学校給食における食中毒の件数は、平成9年度から大幅に減少しており、その背景として国が策定した「学校給食衛生管理の基準」や科学的根拠に基づいた各種マニュアル等を作成・配付し、衛生管理の向

上を図ってきたことが影響していると考えられる。本研究では、学校給食施設の栄養教諭等（12 都道府県 1435 名）にアンケートを実施し、各種マニュアルの活用や指導状況、課題等について調査し、解析・検証を行った。

**11. 「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証（2）
—各種マニュアル活用の検討—**

高田尚美 安倍ちか 太田裕美子 土谷政代 田中延子 守田真里子
 （第 15 回日本給食経営管理学会学術総会 示説発表）（令和元(2019)年 11 月）

（概要）

本研究では、「10：学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証」について、基準策定のきっかけとなった平成 8 年の腸管出血性大腸菌 O157 による食中毒発生時以前からの勤務者とそれ以降採用の勤務者とで各種マニュアル活用状況や衛生管理に対する意識等に差異がみられるかを検証するため比較検討を行った。

**12. 「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証
～調理場運営（形態）方式等の相違から～」**

太田裕美子 安倍ちか 高田尚美 土谷政代 守田真里子 田中延子
 （第 67 回日本栄養改善学会学術総会 誌上发表）（令和 2(2020)年 9 月）

（概要）

本研究では、学校給食において学校数ベースの調理業務委託率が平成 15 年 15.2%であったものが、平成 30 年 5 月現在 50.6%と増加している（文部科学省 学校給食実施状況等調査）ことから、調理方式（単独調理場・共同調理場）、運営形態（直営・委託）別の各種マニュアルの活用や衛生管理指導状況について検討を行った。

13 「学校給食における食物アレルギー対応指針」が示された前後の食物アレルギー対応に関する比較検討

秋葉佳子 岸根美絵 田中広美 竹内佳代子 土谷政代 守田真里子 田中延子
 （日本学校保健学会第 68 回学術大会 口頭発表）（令和 4（2022）年 11 月）

（概要）

文部科学省より「学校給食における食物アレルギー対応指針」が示されたことから、全国の栄養教諭等を対象に Web アンケートを実施し、平成 26 年公益社団法人全国学校栄養士協議会が実施した食物アレルギーに関する調査結果と比較し、学校における体制の整備及び対応内容の差異について解析し検証を行った。

14 「学校給食における食物アレルギー対応指針」が示された後の食物アレルギー対応の実態

竹内佳代子 秋葉佳子 岸根美絵 田中広美 土谷政代 守田真里子 田中延子
 （日本学校保健学会第 68 回学術大会 口頭発表）（令和 4（2022）年 11 月）

（概要）

全国の栄養教諭等を対象に Web アンケートを実施し、文部科学省から「学校給食における食物アレルギー対応指針」が示された後の学校給食における食物アレルギー対応の現状や課題を明らかにし、食物アレルギー対応の充実に資することを目的として研究を行った。

【著書】

1. 「調理場における洗浄・消毒マニュアル part 1」（平成 21(2009)年）（文部科学省）

共著者：文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に係る調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員
 担 当：第 3 章・2・3（P20・P44）

（概要）

食中毒を防止するため、調理場における食品・調理器具等の洗浄・消毒の意義やその重要性及び方法について根拠となるデータをもとに記述。

2. 「調理場における洗浄・消毒マニュアル part II」（平成 22(2010)年）（文部科学省）

共著者：文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に係る調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員
 担 当：第 2 章・3・4・5・6・7・8・9・10（P13・P24）



(概要)

調理場の施設や食器等の洗浄・消毒および洗浄・消毒の評価方法についてその重要性及び方法について根拠となるデータをもとに記述したもの。

3. 「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」(平成 23(2011)年)(文部科学省)(学建書院)

共著者：文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員

担当：第2章・1,第3章・1・2,第5章・1・2 (P8・P12) (P15・P27) (P51・P56)

(概要)

科学的根拠に基づき、検収室・下処理室における洗浄方法や調理室における切裁・調理の作業について衛生管理と調理技術の両方の視点から記述したもの。

4. 「学校給食調理従事者研修マニュアル」(平成 24(2012)年)(文部科学省)(学建書院)

共著者：文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員

担当：第2章・1,第3章・1・2,第5章・1・2 (P8・P12) (P15・P27) (P51・P56)

(概要)

「学校給食調理員の標準的研修プログラム」に準拠し、衛生管理を充実させるためのステップを明記するとともに、根拠を追及・詳述し、研修を担当する指導者のためのマニュアル。

5. 「学校給食施設設備の改善事例集」(平成 25(2013)年)(文部科学省)

共著者：文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員

担当：第3章・1 (P10・P20)

(概要) 衛生管理のステップ毎に改善の方法や改善事例をまとめた事例集である。

6. 「よくわかる栄養教諭一食育の基礎知識— 第二版」(平成 28(2016)年)(同文書院)

編著：藤澤良知、芦川修貳、古畑公、田中弘之、田中延子

著：土谷政代、大田裕美子、白尾美佳、亀田明美、守田真里子、登坂三紀夫、山口蒼生子、梅垣敬三・小河原佳子、堤ちはる、原ゆみ、安倍ちか

担当：(第2章・1,2節) (P19・P37)

(概要)

学校等における食育の推進に栄養教諭の中核的な役割が重要視されている中、栄養教諭の教育養成に当たってどのような養成教育をおこなったらよいかを視点を置いて執筆したもの。

11章から成り、管理栄養士・栄養士教育の教科課程における公衆栄養学のカリキュラムとの整合性について配慮している。

7 「栄養教諭のための教育実践演習・栄養教育実習ノート

—1年次から使えるポートフォリオ—(令和 3(2021)年2月)(学建書院)

監修：芦川修貳 編集代表：田中延子 編集：守田真里子、高田尚美

著：秋葉佳子、芦川修貳、安倍ちか、岩田雪子、内田良子、太田裕美子、岸根美絵、後藤純子、島村幸代、高田尚美、高橋和子、竹内佳代子、田中延子、田中広美、土谷政代、飛松佳子、中津井貴子、西内恵子、水嶋眞由美、守田真里子、山際昌枝(五十音順)

担当：(第2章・B-10) (P68・P69) (第2章・F) (P81・P83) (資料) (P103・P105)

主な社会活動

・食育講演会「元気な体と心は食事から～食べ方は生き方・育て方」(平成 26(2014)年)

・食育講演会「食事と健康～子どもの健やかな成長を願って～」(平成 27(2015)年)

・食育講演会「食事、その食べ方を考えよう～これからの身体づくりのために今できること～」(平成 27(2015)年)

・食育講演会「体の栄養・心の栄養～逞しい心と体づくりのために」(平成 27(2015)年)

・学校栄養士研究発表会指導助言(平成 27(2015)年～令和 3(2022)年)

・学校栄養職員研修会 新規採用・フォローアップ研修講師(平成 28(2016)年)

・大分市学校給食衛生管理研修会講師(平成 29(2017)年)

・福岡県筑豊地区栄養教諭・学校栄養職員研修会講師(平成 30(2018)年)

・「給食月間記念講演会」講師(平成 31(2019)年)

・学校給食研究協議会「食育講演会講師」(令和元(2019)年)

・行橋京都衛生管理講習会講師(令和 4(2022)年)



学校法人 東筑紫学園

東筑紫短期大学

HIGASHI CHIKUSHI JUNIOR COLLEGE

所属学会	日本栄養士会 日本栄養改善学会	(昭和 51(1976)年～現在に至る) (平成 26(2014)年～現在に至る)
受賞歴	大分県栄養士会研究発表事例研修会優秀賞 大分県教育委員会教育実践者表彰 大分県教育委員会学校給食功労者表彰 文部科学省学校給食功労者文部科学大臣表彰 日本医師会長表彰	(平成 12(2000)年) (平成 14(2002)年) (平成 22(2010)年) (平成 23(2011)年) (平成 30(2018)年)

所属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担当科目	<p>[食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床栄養学Ⅰ 臨床栄養学Ⅱ 臨床栄養学実習Ⅰ 臨床栄養学実習Ⅱ 給食管理実習Ⅰ (臨地実習) <p>[九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> リハビリテーション栄養学
専門分野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 臨床栄養学 ■ 感染制御学
最終学歴	東京医療保健大学 大学院 博士課程
学位	博士 (感染制御学) 修士 (医療栄養学)
職歴	<p>医療法人(現 社会医療法人)北九州病院 北九州中央病院 (昭和 60(1985)年～平成 10(1998)年)</p> <p>同 北九州病院 本部 業務企画部栄養企画課 課長 (平成 10(1998)年～平成 17(2005)年)</p> <p>同 北九州病院 本部 業務企画部栄養企画 副部長 (平成 17(2005)年～平成 26(2014)年)</p> <p>九州女子大学 家政学部 栄養学科 准教授 (平成 26(2014)年 4 月～平成 28(2016)年 3 月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授 (平成 28(2016)年 4 月～令和 3(2021)年 3 月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 教授 (令和 3(2021)年 4 月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>【作成した教科書】</p> <p>栄養科学シリーズ NEXT シリーズ 公衆栄養学 第 5 版 講談社 (平成 27(2015)年)</p> <p>(担当部分概要) 第 9 章「公衆栄養プログラムの展開」 保健所、本庁におけるプログラム展開、高齢期を対象としたプログラム</p> <p>栄養科学シリーズ NEXT シリーズ 公衆栄養学 第 6 版 講談社 (令和元(2019)年)</p> <p>(担当部分概要) 第 9 章「公衆栄養プログラムの展開」 保健所、本庁におけるプログラム展開、高齢期を対象としたプログラム</p> <p>臨床栄養学実習 medical nutrition diet manual 初版 株式会社みらい (令和 2(2020)年)</p> <p>(担当部分概要) 第 1 部「治療食献立の基礎」 治療食と献立、献立作成までの計画</p>
主な研究活動	<p>【学術論文】</p> <p>1. 「Modulatory effects of <i>Bifidobacterium longum</i> BB536 on defecation in elderly patients receiving enteral feeding」 World Journal of Gastroenterology April 14,2013;19(14):2162-2170 共著者名 : J.Kondo, A.Abe, K.Shimizu, K.Ogawa, T.Taeko [共同研究につき担当部分抽出不可能]</p> <p>(概要) 経管栄養で管理している高齢者を対称に、試験 1)ではプラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 16 週間摂取した群の 2 群に分け、試験 2)ではビフィズス菌高用量群と低用量群とプラセボ群の 3 群に分け、便中細菌叢と便性状の比較検討結果をまとめた。</p> <p>2. 「酸味調味料の物性特性と嚥下困難者の栄養状態」 日本医療企画 Human Nutrition 2013.12 月 No.27 80-89 共著者名 : 近藤順子、原田薫雄、真溪香代子、道脇幸代、下田妙子 [共同研究につき担当部分抽出不可能]</p> <p>(概要) 嚥下機能が低下した患者に提供する料理において酢は揮発性成分が咽頭を刺激し「むせ」を誘発する。揮発性の酸の相対存在量を削減した調味料を使用した料理の 摂取がおよぼす嚥下機能や栄養状態への影響を調査した。</p>



3. 「高齢糖尿病患者に対する L-イソロイシン配合濃厚流動食の血糖コントロールおよび栄養状態におよぼす影響」

日本臨床栄養協会 原著論文 New Diet Therapy 2014.12 月.Vol30 No.3 15-22

共著者名：近藤順子、岡田昌子、吉岡承美、遠藤美香、宮本美知子、蓮尾裕

[共同研究につき担当部分抽出不可能]

(概要)

耐糖能異常を伴う高齢経管栄養患者において、アミノ酸 L-イソロイシンが配合されたディムベストを使用した症例において血糖コントロールと栄養状態の維持改善の結果をまとめた。

4. 「二次性サルコペニア肥満患者に対するリハビリテーションと栄養補助飲料摂取の併用効果」

東筑紫短期大学 研究紀要 48、299-307、2017

共著者名：近藤順子、阿部亜希恵、岡田昌子、川添恵理子、吉岡承美、古谷恭子、白幡聰

[共同研究につき担当部分抽出不可能]

(概要)

経管栄養を施行されている二次性サルコペニア肥満患者を対象に、ベッドサイドリハビリテーションにビタミン D と BCAA の摂取を併用することで骨格筋の減少を抑えることが可能であるか、介入試験の結果をまとめた。

5. 「女子学生のボディ・イメージの願望と現状について」

東筑紫短期大学 研究紀要 48、321-331、2017

共著者名：南里美、遠藤景子、近藤順子

[共同研究につき担当部分抽出不可能]

(概要)

女子学生のボディ・イメージやその願望理由など意識調査を行い、現状の体組成や BMI との差異、隠れ肥満の状況を把握し、誤った体型認識の是正と適正体重の維持と食生活改善に繋げる取組みをまとめた。

6. 「Effects of paraprobiotic *Lactobacillus paracasei* MCC1849 supplementation on symptoms of the common cold and mood states in healthy adults」

Journal : Beneficial Microbes: 9 (6) - Pages: 855 – 864、2018

共著者名：M. Murata, J. Kondo, N. Iwabuchi, S. Takahashi, K. Yamauchi, F. Abe, K. Miura

[共同研究につき担当部分抽出不可能]

(概要)

健康な成人女性を対象に *L.paracasei* MCC1849 菌末 1 包あたり 100 億個あるいは 300 億個を摂取する群およびプラセボ群をランダムに分け、12 週間摂取後、風邪に関する自覚症状の記録および気分プロフィール検査を実施し、その効果について結果をまとめた。

【学会発表】

1. クオリティを考慮した[お惣菜ムース]既製品化への検討

第 13 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会 (平成 19(2007)年 9 月)

メーカー依頼の嚥下食「お惣菜ムース」開発までのプロセスを報告。

2. 北九州古賀病院での食形態改善の取り組み

第 16 回日本療養病床協会全国研究会 (平成 20(2008)年 9 月)

きざみ食廃止の試みについて報告。

3. 病院職員を対象とした健診結果から肥満、血糖、中性脂肪の比較検討

第 55 回日本栄養改善学会学術総会 (平成 20(2008)年 9 月)

病院職員の健診結果約 2,000 名のデータから BMI から肥満に該当する人の血糖と中性脂肪の値を健常者と比較検討した結果を報告。

4. 嚥下食における医療連携

第 34 回福岡県栄養改善学会 (平成 20(2008)年 9 月)

嚥下食の物性評価を実施し、段階別障害レベルと合わせて地域で連携する7対応について報告。

5. 病院職員を対象とした健診結果の階層化と階層別食習慣との関連

第 56 回日本栄養改善学会学術総会 (平成 21(2009)年 9 月)

750 名の健診結果から BMI を 5 群に階層化し生化学検査結果および食習慣との関連を報告。

**6. メタボリックシンドローム群の BMI と食習慣との関連**

第 13 回日本病態栄養学会年次学術集会

(平成 22(2010)年 1 月)

メタボリックシンドローム群と健常群の BMI を基本にして生化学検査結果と食習慣の関連について報告。

7. 新規な介護用ソースを用いた嚥下食メニューの理化学物性と嚥下適正評価

第 16 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会

(平成 22(2010)年 9 月)

嚥下障害者用のソースを用いて作成した嚥下食の物性評価と VF 検査による摂取状況から適正評価を行った結果を報告。

8. 高齢者に対するビフィズス菌長期投与による免疫賦活作用と感染防御効果

第 57 回日本栄養改善学会学術総会

(平成 22(2010)年 9 月)

経管栄養で管理している高齢者を 2 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 5 週間摂取した群の体温、便性状等の比較検討結果を報告。

9. プロバイオティクビフィズス菌の長期摂取による高齢患者の便通性状および生体防御に対する影響の検討

第 14 回日本病態栄養学会年次学術集会

(平成 23(2011)年 1 月)

嚥下障害者用のソースを用いて作成した嚥下食の物性評価と VF 検査による摂取状況から適正評価を行った結果を報告。

10. プロバイオティクビフィズス菌の摂取による高齢患者の便中細菌叢および便通性状に対する影響の検討

第 15 回日本病態栄養学会年次学術集会

(平成 24(2012)年 1 月)

経管栄養で管理している高齢者を 2 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 16 週間摂取した群の便中細菌叢と便性状の比較検討結果をまとめ。

11. Effects of the enteral nutrition containing probiotic Bifidobacterium longum BB536 on bowel movement and immunological parameters of the elderly patients

第16回 International Congress of Dietetics (国際栄養士会議) (平成24(2012)年9月)

【臨床栄養療法部門賞 受賞】

経管栄養で管理している高齢者を2群に分け、プラセボ群とビフィズス菌BB536を16週間摂取した群の体温、便性状、免疫指標等の比較結果を報告

12. ビフィズス菌 BB536 の長期投与が経腸栄養高齢患者の便性状および腸内菌叢におよぼす影響

第 28 回日本静脈経腸栄養学会学術集会

(平成 25(2013)年 2 月)

経管栄養で管理している高齢者を 3 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 中用量群と高用量群の体温、便性状、免疫指標等の比較結果および腸内細菌叢への影響を報告。

13. 経管栄養管理の高齢者におけるサルコペニア肥満の実態調査

第 29 回日本静脈経腸栄養学会学術集会

(平成 26(2014)年 2 月)

経管栄養で管理している高齢者において、寝たきりの不活動での体重増加、筋肉量の低下、体脂肪の増加による、サルコペニア肥満の実態調査を行い発表した。

14. 寝たきり状態の高齢者におけるサルコペニア肥満の実態調査

第 18 回日本病態栄養学会年次学術集会

(平成 27(2015)年 1 月)

経管栄養で管理している高齢者においてサルコペニア肥満の実態調査を行い、摂取栄養量との関連について発表した。

15. 脳卒中クリニカルパスへの歯科専門検診・口腔ケア導入の取組みと効果

第 62 回日本栄養改善学会学術総会

(平成 27(2015)年 9 月)

誤嚥性肺炎を防止するために、クリニカルパスに歯科医師専門の口腔ケアを導入し栄養状態および血液検査等の調査を実施した。その効果について発表した。

16. サルコペニア肥満患者に対するリハビリテーションと栄養補助食品摂取の併用効果

第 31 回日本静脈経腸栄養学会学術集会

(平成 28(2016)年 2 月)

サルコペニア肥満患者を対象にリハビリテーションと筋肉合成に関与するビタミン D と分岐鎖アミノ酸を豊富に含む栄養補助食品を組み合わせることで体組成の変化、栄養状態、身体機能への効果について報告した。



	<p>17. 乳酸菌 <i>Lactobacillus paracasei</i> 菌体の摂取による健康女性の感冒症状に対する効果 日本食品免疫学会2016 (平成28(2016)年11月) <i>Lactobacillus paracasei</i> MCC1849株菌体の継続摂取が健康者の健康状態および気分状態に及ぼす効果について報告した</p> <p>18. Effects of <i>Lactobacillus paracasei</i> MCC1849 supplementation on symptoms of the common cold and mood states in healthy adults: A randomized, double-blind, placebo-controlled trial International Union of Microbiological Societies (国際生物学連合) 2017 (平成29(2017)年7月) <i>Lactobacillus paracasei</i> MCC1849 株菌体の継続摂取により感冒に罹患しやすい被験者において発症スコアを低減し、前向きで望ましい気分の維持に役立つ効果について発表した。</p>
<p>主な社会活動</p>	<p>【調査研究】厚生労働省 長寿科学総合研究事業 (北海道大学 大浦武彦教授) 「褥瘡の予防と治療に関する研究」～栄養介入の効果の検討 (平成 20(2008)年 4 月～平成 22(2010)年 3 月)</p> <p>(概要) 厚生労働省の研究事業 日本全国横断研究に参画。北九州病院グループにおける対象患者の臨床データをまとめて提出をおこなった。</p> <p>【周望学舎】講師 (実習および講義) 主催 北九州市立年長者研修大学校 (平成 30(2018)年 8 月～令和元(2019)年 8 月)</p> <p>(概要) 高齢者の生きがい、健康、ふれあい、社会参加の推進を目的に行われている研修会の一環として、疾病予防をテーマに調理実習を交え講義を行った。</p> <p>【北九州市立年長者研修大学校周望学舎シニアカレッジ】講師 北九州市との連携事業 (令和 4 年(2022)年 9 月 14 日)</p> <p>(概要) 「元気にシニアライフを愉しもう 2022」 「むせ」ってなに？嚥下について学ぼう！ をテーマにむせや嚥下のメカニズムを理解することにより誤嚥性肺炎の予防について学ぶための講義を行った。</p>
	<p>【職務上の実績】</p>
	<p>1. 脳血管疾患 地域医療連携体制構築 (平成 18(2006)年 4 月～平成 20(2008)年 3 月) 北九州市の脳卒中連携パス稼働の数年前から、急性期・回復期・慢性期の脳卒中連携パスの開発とシステム運用を実施してきた。地域の開業医や地域住民への早期発見・早期治療の啓蒙活動にも参画した。</p> <p>2. 医療材料管理システムの構築 (平成 19(2007)年 4 月～平成 26(2014)年 3 月) 入院患者の高齢化・重症化に伴い医療材料のコストが年々増加傾向にあり、医療材料について発注・梱卸・受払の管理システムの構築、スケールメリットを活かした価格交渉を行い、コスト削減を図った。各施設医療材料発注担当者へABC分析や在庫回転率による管理体制についても教育指導を実施した運用活用を導入。</p> <p>3. 西日本看護専門学校 栄養学非常勤講師 (平成 20(2008)年 11 月～平成 26(2014)年 3 月) 西日本看護専門学校において2年生を対象に「栄養学」の講義を担当。臨床現場で即戦力として役立つように、教科書では知ることができない医療現場での経験を基に授業を展開してきた。また、糖尿病の治療食調理実習など現場での患者教育に活かせる内容の講義を盛り込み実施した。</p> <p>4. 商品開発 メーカーからの協力依頼により商品開発に参画 ①「エンジョイゼリー」 製造販売元依頼：森永乳業(株)クリニコ ②「もぐもぐお惣菜ムース」 製造元依頼：熊本県 デリテック(株) 販売：北進産業(株) ③「ジャネフなめらかプラス」(メーカー特許取得) 製造販売元依頼：キューピー(株) ④「豆腐やわらかパテ」 製造販売元依頼：不二精油(株)</p> <p>5. BCP (業務継続計画) 体制整備 (平成 23(2011)年 10 月～平成 26(2014)年 3 月)</p>



大規模な震災発生により医療としての業務継続計画（BCP）の体制整備について要望が高まり、北九州市での圧倒的介護療養病床の高いシェア率である病院グループについては医療として地域に果たす役割の大きさから、緊急連絡体制の推進および対応すべき基盤となる項目の構築を行った。

【講演活動】

1. 「HACCPに基づく厨房環境の改善」講演
業務用電化厨房セミナー 九州電力 宮崎営業所 (平成18(2006)年10月)
2. 「北九州病院グループにおける段階嚥下食の対応」講演
佐賀栄養士セミナー 九州電力 佐賀営業所 (平成19(2007)年2月)
3. 「クオリティを考慮した“お惣菜ムース”既製品化への検討」講演
業務用電化厨房セミナー 九州電力 鹿児島営業所 (平成19(2007)年7月)
4. 「HACCPに基づく厨房環境の改善」講演
業務用電化厨房セミナー 九州電力 宮崎営業所 (平成19(2007)年8月)
5. 「HACCPに基づく厨房環境の改善」講演
佐賀栄養士セミナー 佐賀栄養士勉強会 (平成19(2007)年9月)
6. 「厨房環境の改善 実測データを交えて」講演
業務用電化厨房セミナー 九州電力 北九州イリス (平成20(2008)年11月)
7. 「脳卒中の医療連携」脳外科医師と管理栄養士の取り組み 講演
医療従事者対象 トークセミナー 北九州商工会議所 (平成23(2011)年3月)
8. 「栄養管理から考える褥瘡対策」講演
特定医療法人勇愛会 大島病院 褥瘡・NSTメンバー対象 (平成24(2012)年10月)
9. 「看護臨床研究の基本から研究発表を行うまで」シリーズ4回講演
門司掖済会病院 看護師対象 (平成27(2015)年5月～平成28(2016)年3月)
10. 「災害時の医療機能継続における栄養士の役割～専門職としての事前準備と緊急時の対応～」
第62回日本栄養改善学会学術総会 ランチョンセミナー座長 (平成27(2015)年9月)
共 催：西部ガス株式会社
11. 「美味しく食べるために ～食べさせケアに配慮して～」講演
2018年 医療・介護福祉食品展示会 セミナー講師 (平成30(2018)年10月)
共 催：キューピー株式会社

所 属 学 会	日本栄養改善学会会員 (平成7(1995)年4月～現在に至る)
	日本糖尿病協会会員 (平成10(1998)年4月～現在に至る)
	日本病態栄養学会会員 評議員 (平成12(2000)年4月～現在に至る)

受 賞 歴	福岡県栄養士大会 第27回栄養改善学会 功労者表彰 (平成13(2001)年9月)
	日本栄養士会 会長表彰 (平成23(2011)年9月)
	第16回 International Congress of Dietetics 臨床栄養療法部門賞 (平成24(2012)年9月)

所属	東筑紫短期大学 食物栄養学科	
担当科目	〔食物栄養学科〕 ・微生物学 ・基礎化学 ・生化学 ・食品衛生学 ・食品衛生学実験 ・フードスペシャリスト論 ・食品の官能評価・鑑別演習 ・初年次教育・キャリアアップ演習Ⅰ ・キャリアアップ演習Ⅱ	
専門分野	■ 微生物学	
最終学歴	筑波大学大学院 農学研究科 応用生物化学専攻 博士課程修了	
学位	博士（農学）	
職歴	日本大学生物資源科学部 21世紀COE 研究員 (平成15年4月～平成19年3月) 海洋研究開発機構 ポスドク研究員 (平成19年4月～平成22年3月) 海洋研究開発機構 研究員 (平成22年4月～平成28年3月) 海洋研究開発機構 特任技術研究員 (平成28年4月～平成29年3月) 東京大学 農学生命科学研究科 特任助教 (平成29年4月～平成29年8月) 海洋研究開発機構 特任技術スタッフ (平成29年9月～平成30年3月) 東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授 (平成31年4月～令和4年3月) 東筑紫短期大学 食物栄養学科 教授 (令和4年4月～現在に至る)	
主な研究活動	【著書】 『 深海探検 』(共著) 海泉社 (平成25年7月) スケーリーフットの生体に関する項目を担当。 『 環境と微生物の辞典 』(共著) 朝倉書店 (平成26年7月) 第150頁、深海生物に共生する微生物の項目を担当。 『 深海生物ビジュアル大図鑑 』(共著) 海泉社 (平成26年8月) スケーリーフットとゴエモンコシオリエビの生体に関する項目を担当。	
	【学術論文等】 Konishi, M., <u>Watsuji, T.</u> , Nakagawa, S., Hatada, Y., Takai, K., and Toyofuku, T. Effects of hydrogen sulfide on bacterial communities on the surface of galatheid crab, <i>Shinkaia crosnieri</i>, and in a bacterial mat cultured in rearing tanks. (ゴエモンコシオリエビの体表に付着する細菌相や水槽内のバクテリアマットに対する硫化水素の効果) (共著) Microb. Environ., vol. 28, pp. 25-32 (平成25年3月) 【概要】 本研究では捕獲したゴエモンコシオリエビを硫化水素添加水槽で飼育することで、外部共生菌相中の硫黄酸化細菌を維持しながら飼育できることを示唆した。 担当部分：生け捕りにしたゴエモンコシオリエビを提供し、筆頭著者と共に硫化水素添加水槽を開発した。	
	Mino, S., Makita, H., Toki, T., Miyazaki, J., Kato, S., Watanabe, H., Imachi, H., <u>Watsuji, T.</u> , Nunoura, T., and Kojima, S. Biogeography of <i>Persephonella</i> in deep-sea hydrothermal vents of the Western Pacific. (西太平洋の深海熱水噴出孔における <i>Persephonella</i> の生物地理学) (共著) Front. Microbiol., vol. 4, doi: 10.3389/fmicb.2013.00107 (平成25年4月) 【概要】 本研究では沖縄トラフと南マリアナトラフの熱水噴出域から独立栄養性化学合成細菌である <i>Persephonella</i> を36株単離し、それらの遺伝的多様性をゲノムレベルで捉えることで地域的な種分化が起こっていることを確かめた。 担当部分：縄トラフと南マリアナトラフにおける熱水のサンプリングで貢献した。	

Kawagucci, S., Miyazaki, J., Nakajima, R., Nozaki, T., Takaya, Y., Kato, Y., Shibuya, T., Konno, U., Nakaguchi, Y., Hatada, K., Hirayama, H., Fujikura, K., Furushima, Y., Yamamoto, H., Watsujii, T.-o., Ishibashi, J.-i., and Takai, K.

Post-drilling changes in fluid discharge pattern, mineral deposition, and fluid chemistry in the Theya North hydrothermal field, Okinawa Trough.

(沖縄トラフの伊平屋北熱水フィールドの流体噴出パターン、鉱物沈殿物、流体化学についての掘削後の変化) (共著) *Geochem. Geophys. Geosyst.*, vol. 14, p. 4774-4790 (平成 25 年 11 月)

【概要】

掘削船「ちきゅう」によって沖縄トラフの熱水域が掘削された結果、深海で世界初の人工熱水が噴出した。本研究では人工熱水の組成の変遷を 2 年間に渡って調べた。

担当部分：熱水成分の一つである硫化水素の濃度を測定することで本研究に貢献した。

Nakagawa, S., Shimamura, S., Takaki, Y., Suzuki, Y., Murakami, S.-i., Watanabe, T., Fujiyoshi, S., Mino, S., Sawabe, T.-o., Maeda, T., Makita, H., Nemoto, S., Nishimura, S.-I., Watanabe, H., Watsujii, T.-o., and Takai, K.

Allying with armored snails: the complete genome of gammaproteobacterial endosymbiont.

(鎧貝と共生するガンマプロテオバクテリアの内部共生細菌の完全ゲノム) (共著)

ISME J., vol. 8, pp. 40-51 (平成 26 年 1 月)

【概要】

本研究ではインド洋の深海性巻貝スケーリーフットが体内に宿す内部共生菌のゲノム解読とスケーリーフットにおける炭酸固定の活性測定が行われた。これにより、その内部共生菌は独立栄養性化学合成細菌であることや宿主の栄養源であることが明らかとなった。

担当部分：インド洋での生体サンプルの捕獲で貢献した。

Watsujii, T.-o., Yamamoto, A., Takaki, Y., Ueda, K., Kawagucci, S., and Takai, K.

Diversity and methane oxidation of active epibiotic methanotrophs on live *Shinkaia crosnieri*.

(ゴエモンコシオリエビに付着するメタン酸化細菌のメタン酸化活性と多様性)

(共著) *ISME J.*, vol. 8, pp. 1020-1031 (平成 26 年 5 月)

【概要】

本研究ではゴエモンコシオリエビの体毛に付着する生きた細菌の分子系統解析やメタン酸化活性の測定を行った。これらの結果、現在においてもゴエモンコシオリエビは活性を有するメタン酸化細菌を体に付着させていることが証明された唯一の動物となった。本論文は微生物学の専門誌で最もインパクトのある nature の姉妹紙に掲載された。

担当部分：研究の発想、計画、実施、執筆を主に行って第一著者と責任著者になった。

Konishi, M., Nishi, S., Fukuoka, T., Kitamoto, D., Watsujii, T.-o., Nagano, Y., Yabuki, A., Nakagawa, S., Hatada, Y., and Horiuchi, J.-i.

Deep-sea *Rhodococcus* sp. BS-15, lacking the phytopathogenic fas genes, produces a novel glucotriose lipid biosurfactant.

(植物病原性 fas 遺伝子を欠損し、新規のグルコトリオース脂質バイオサーファクタントを生産する深海性 *Rhodococcus* sp. BS-15)

(共著) *Mar. Biotechnol.*, vol. 16, pp. 1929-1940 (平成 26 年 8 月)

【概要】

本研究では深海でサンプリングしたグラム陽性菌 *Rhodococcus* sp. BS-15 が新規の生物系解明活性剤を生産することを見出した。

担当部分：本菌を含む堆積物を深海でサンプリングし、開発したメタン添加水槽でその堆積物を維持・管理することで研究に貢献した。

Watsujii, T.-o., Takano, H., Yamabe, T., Tamazawa, S., Ikemura, H., Ohishi, T., Matsuda, T., Shiratori-Takano, H., Beppu, T., and Ueda, K.

Analysis of the tryptophanase expression in *Symbiobacterium thermophilum* in a coculture with *Geobacillus stearothermophilus*.

(*Geobacillus stearothermophilus* との共培養における *Symbiobacterium thermophilum* のトリプトファナーゼ発現の解析)



(共著) Appl. Microbiol. Biotechnol., vol. 98, pp. 10177-10186 (平成 26 年 12 月)

【概要】

共生細菌 *Symbiobacterium thermophilum* (ST)は生育支持菌 *Geobacillus stearothermophilus* が生産する生育因子によって増殖が活性化される。本研究では生育因子が二酸化炭素とアンモニアであることを突き止め、それらを ST に与えるとトリプトファンへの発現が活性化されることを明らかにした。

担当部分：研究の発想、計画、実施を主に行って第一著者になった。

Watsujii, T.-o., Yamamoto, A., Motoki, K., Ueda, K., Hada, E., Takaki, Y., Kawagucci, S., and Takai, K.
Molecular evidence of digestion and absorption of epibiotic bacterial community by deep-sea crab *Shinkaia crosnieri*.

(ゴエモンコシオリエビによる外部共生菌の消化と吸収の分子的証明) (共著)

ISME J., vol. 9, pp. 821-831 (平成 27 年 4 月)

【概要】

本研究ではゴエモンコシオリエビが体毛に付着する外部共生細菌を摂餌によって栄養源とすることを実証した。これにより、無脊椎動物と外部共生菌間に栄養的な共生が存在することを世界で初めて実証した。本論文は菌類を含む微生物学の専門誌で最もインパクトのある nature の姉妹紙 (ISME J) に掲載された。

担当部分：研究の発想、計画、実施、執筆を行って第一著者と責任著者になった。

Fujiyoshi, S., Tateno, H., Watsujii, T.-o., Yamaguchi, H., Fukushima, D., Mino, S., Sugimura, M., Sawabe, T., Takai, K., and Sawayama, S.

Effects of Hemagglutination Activity in the serum of a deep-sea vent endemic crab, *Shinkaia crosnieri*, on non-symbiotic and symbiotic bacteria.

(非共生細菌及び共生細菌に対するゴエモンコシオリエビの血清の血球凝集活性の効果)

(共著) Microb. Environ., vol.3, pp. 228-234 (平成 27 年 9 月)

【概要】

深海の固有甲殻類ゴエモンコシオリエビは腹側の体毛に付着する外部共生細菌を摂餌して栄養源としている。本研究ではゴエモンコシオリエビの血リンパ成分が外部共生菌と特異的に結合することを明らかにした。この結果より、ゴエモンコシオリエビの血リンパ中成分は共生細菌の獲得・維持または生体防御に重要な機能を有することが示唆された。

担当部分：ゴエモンコシオリエビの捕獲や血リンパ成分の採取において貢献した。

Thornton B., Bodenmann A., Pizarro O., Williams S., Friedman A., Nakajima R., Takai K., Motoki K., Watsujii T.-o., Hirayama H., Matsui Y., Watanabe H. and Ura T.

Biometric assessment of deep-sea vent megabenthic communities using multi-resolution 3D image reconstructions.

(多重解像度 3D イメージ再構築を用いた深海熱水性大型底生動物のバイオメトリック評価) (共著)

Deep Sea Res. Part I Oceanogr. Res. Pap., vol. 116, PP. 200-219. (平成 28 年 1 月)

【概要】

沖縄トラフにおける伊平屋北熱水フィールドの NBC サイト (1.2 ha) を海底より 8 m の高度から潜水艇の底に取付けた 3D スキャン装置とカメラで撮影することで、NBC サイトにゴエモンコシオリエビが 47, 335 匹存在することや、全有機炭素分析によって NBC サイトのゴエモンコシオリエビのバイオマスが 42 kg-C と見積もられることなどを示した。

担当部分：ゴエモンコシオリエビの捕獲と全有機炭素分析を行った。

Kawagucci S., Miyazaki J., Noguchi T., Okamura K., Shibuya T., Watsujii T.-o., Nishizawa M., Watanabe H., Okino K., Takahata N., Sano Y., Nakamura K., Shuto A., Abe M., Takaki Y., Nunoura T., Koonjul M., Singh M., Beedessee G., Khishma M., Bhojroo V., Bissessur D., Kumar L. S., Marie D., Tamaki K. and Takai K.

Fluid chemistry in the Solitaire and Dodo hydrothermal fields of the Central Indian Ridge.

(中央インド洋海嶺におけるソリティア及びドードー熱水フィールドの流体化学) (共著)

Geofluids, vol. 16, PP. 988-1005. (平成 28 年 1 月)

【概要】

本研究ではこれまでに発見した中央インド洋海嶺のソリティア熱水フィールドとドードー熱水フィールドで噴き出す熱水を無機化学的に分析し、特徴付けた。

担当部分：それぞれのフィールドの熱水に含まれる硫化水素濃度の分析を行なった。

Nozaki T., Ishibashi J., Shimada K., Nagase T., Takaya Y., Kato Y., Kawagucci S., Watsuiji T.o., Shibuya T., Yamada R., Saruhashi, T., Kyo, M and Takai K.

Rapid growth of mineral deposits at artificial seafloor hydrothermal vents.

(人工熱水噴出孔における鉱物沈殿物の急速な成長(共著))

Scientific Reports, vol. 6, doi: 10.1038/srep22163 (平成 28 年 2 月)

【概要】

沖縄トラフの熱水域を掘削船「ちきゅう」で掘削して得られた深海人工熱水噴出孔では短期間でチムニーが生成されることが分かった。本研究ではそのチムニーの全岩化学分析を行うことで、金、銀、銅、亜鉛など有用金属元素が高濃度で含まれていることを明らかにした。

担当部分：人工熱水噴出孔に生成したチムニーの採取に貢献した。

Watsuiji T.o., Hada E., Miyazaki M., Ichimura M. and Takai K.

***Thiomicrospira hydrogeniphila* sp. nov., a novel aerobic, hydrogen- and sulfur-oxidizing chemolithoautotroph isolated from a seawater tank containing a block of beef tallow.**

(牛脂を含む海水培養槽から単離された新種の好氣的、水素酸化性、硫酸酸化性化学合成細菌

Thiomicrospira hydrogeniphila) (共著)

Int. J. Syst. Evol. Microbiol., vol. 66, PP. 3688-3693. (平成 28 年 9 月)

【概要】

培養槽の海水に牛脂を加えて、硫酸化細菌を集積し、そこから新種の硫酸化細菌を単離して特徴付けた。硫酸化細菌の集積や単離では申請者が持つ栄養学的知見、微生物制御技術、単離培養技術を活かした。特徴付けでは分子生物学的手法を用いた系統解析、増殖速度の算出、ビタミン要求性試験などを行った。

担当部分：研究の発想、計画、実施、論文の執筆を行って第一著者及び責任著者になった。

Mino S., Nakagawa S., Makita H., Toki T., Miyazaki J., Sievert S. M., Polz M. F., Inagaki F., Godfroy A., Kato S., Watanabe H., Nunoura T., Nakamura K., Imachi H., Watsuiji T.o., Kojima S., Takai K. and Sawabe T.

Chemolithoautotroph *Sulfurimonas* at deep-sea hydrothermal vents.

(深海熱水噴出域において普遍的に存在する中温性化学合成細菌 *Sulfurimonas* の流行性)

(共著) ISME J, vol.11, PP. 909-919. (平成 29 年 4 月)

【概要】

独立栄養性硫酸化細菌の *Sulfurimonas* は熱水噴出域に普遍的に存在するが、本研究ではより詳細な系統解析を施すことで、普遍的に見られる *Sulfurimonas* にも地理的な特異性があること示した。

担当部分：沖縄トラフと南マリアナトラフにおける熱水のサンプリングで貢献した。

Watsuiji T.o., Tsubaki R., Chen C., Nagai Y., Nakagawa S., Yamamoto M., Nishiura D., Toyofuku T. and Ken Takai K.

Cultivation mutualism between a deep-sea vent galatheid crab and its chemosynthetic epibionts.(深海コシオリエビと化学合成性外部共生菌間の栽培的相利共生) (共著)

Deep Sea Res. Part I Oceanogr. Res. Pap., vol.127, pp.13-20 (平成 29 年 4 月)

【概要】

本研究ではゴエモンコシオリエビは付属肢で起こした水流を体に付着する化学合成細菌に与えて、その代謝活性を促進させることを実験室レベルで証明した。これまでに宿主動物が付着性化学合成細菌の代謝活性を促進させる実験的証拠はなかったことから、本研究は付着性化学合成細菌を宿主動物が栽培することを強く示唆する初めての論文となった。

担当部分：研究の発想、計画、実施、論文の執筆を行って第一著者及び責任著者になった。

藤吉奏, 和辻智郎

深海動物に付着する体外共生菌の機能と役割の解明(共著)

生物科学 vol. 69(4), pp. 231-236. (平成 30 年 7 月)

【概要】

世界の深海熱水域には体に細菌(外部共生菌)を付着させた動物が繁栄している。これまでにゴエモンコシオリエビを用いて外部共生菌相中に硫酸化細菌やメタン酸化細菌が存在することや宿主動物が外部共生菌を収獲し、栄養源とすることを世界に先駆けて実証した。

本論文ではゴエモンコシオリエビの研究を通じて深海外部共生研究が抱える主要な問題を解決してきた点を述べた。



Maruyama T., Watsuji T.-o., Takahashi T., Kayama Watanabe H., Nagai Y., Fujiwara Y., Toyofuku T., Nemoto S., Koyano Y., and Thornton B.

***In situ* vital staining for chasing the galatheid crab *Shinkaia crosnieri* on deep-sea floor**
(深海底に生息するゴエモンコシオリエビを追跡するための現場生染色)(共著)

JAMSTEC Rep. Res. Dev., vol. 27, pp.1-11 (平成 30 年 9 月)

【概要】

生かした状態でゴエモンコシオリエビの体毛や外骨格を Coomassie Brilliant Blue R250 (CBB)で良く染色できることが分かった。また、染色後の個体は飼育下でその色を5ヶ月間以上保ち、8ヶ月間以上生きた。深海の現場で CBB 染色した個体は染色して3日間後においても生息場所をほとんど移動しないことが分かった。

担当部分：生きたゴエモンコシオリエビの供与と飼育、論文の校閲を担当した。

Watsuji T.-o., Motoki K., Hada E., Nagai Y., Takaki Y., Yamamoto A., Ueda K., Toyofuku T. Yamamoto H. and Takai K.

Compositional and functional shifts in the epibiotic bacterial community of *Shinkaia crosnieri* Baba & Williams (a squat lobster from hydrothermal vents) during methane-fed rearing (メタン添加水槽で飼育したゴエモンコシオリエビの外部共生菌の菌相構造と機能の変遷) (共著)

Microb. Environ., vol.33(4), pp. 348-356 (平成 30 年 12 月)

【概要】

ゴエモンコシオリエビは腹側の体毛に硫黄酸化細菌とメタン酸化細菌を付着共生させている。本研究ではメタン添加水槽で飼育したゴエモンコシオリエビが体毛の菌相から硫黄酸化細菌を失い、メタン酸化細菌を維持することを示した。本研究は化学合成細菌を含む外部共生菌相の構造が環境に強く影響されることを初めて示す論文となった。

担当部分：研究の発想、計画、実施、論文の執筆を行って第一著者及び責任著者になった。

Okada, S., Chen, C., Watsuji, T.-o., Nishizawa, M., Suzuki, Y., Sano, Y., Bissessur, D., Shigeru Deguchi, S. and Takai, K.

The making of natural iron sulfide nanoparticles in a hot vent snail (共著)

Proc. Natl. Acad. Sci. USA vol. 116 (41), pp. 20376-20381 (令和元年 9 月)

【概要】

インド洋の深海熱水域に生息する巻貝であるスケーリーフットの貝殻やウロコは硫化鉄で覆われているが、その生成機構は不明であった。本論文ではスケーリーフット自身が放出した硫黄成分と環境中の鉄イオンが反応して、硫化鉄の結晶粒子を作り出すことを明らかにした。

担当部分：研究の計画、現場環境に貝殻や鱗の設置などを行った。

Miyazaki, J., Ikuta, T., Watsuji, T.-o., Abe, M., Yamamoto, M., Nakagawa, S., Takaki, Y., Nakamura, K. and Takai, K.

Dual energy metabolism of the *Campylobacterota* endosymbiont in the chemosynthetic snail *Alviniconcha marisindica* (共著)

ISME J, vol.14, PP. 1273-1289. (令和 2 年 2 月)

【概要】

深海熱水域に生息する巻貝であるアルビン貝はエラに細菌を内部共生させている。本研究では内部共生細菌が硫化水素だけでなく、水素をエネルギー源として化学合成することを実験的に初めて証明した。

担当部分：アルビン貝の内部共生菌が硫化水素や水素をエネルギー源として炭酸固定を行うことや内部共生菌の黄酸化活性や水素酸化活性を測定した。また、実験部分の方法と結果を執筆した。

Sun J., Chen C., Miyamoto N., Li R., Sigwart J. D., Xu T., Sun Y., Wong W. C., Ip, C. H. J., Zhang W., Lan Y., Bissessur D., Watsuji T.-o., Watanabe H., Takaki, Y., Ikee, K., Fujii, N., Yoshitake, K., Jian-Wen Qiu, J., Takai, K. and Qian, P.-Y.

The Scaly-foot Snail genome and implications for the origins of biomineralised armour (共著)

Nature Communications, vol.11, 1657 (2020). (令和 2 年 4 月)

【概要】

インド洋の深海熱水域に生息するスケーリーフットは巻貝であるにもかかわらず鱗をもつというユニークな特徴を有する。本論文ではスケーリーフットの全ゲノムの解読に成功し、スケーリーフットの硬組織(貝殻と鱗)形成に関与する可能性のある 25 の転写因子を同定した。そして、これらの転写因子はスケーリーフ

ツットの鱗特有ではなく、カンブリア爆発まで遡れる硬組織形成に広く関わる一連の遺伝子「ツールキット遺伝子」であり、そのツールキットの使い方や使う場所が変わることで様々な硬組織が進化してきたことが示唆された。

担当部分：サンプルの提供と論文の校閲を担当した。

K Motoki, T. Watsuji, Y Takaki, K Takai, W Iwasaki

Metatranscriptomics by In Situ RNA Stabilization Directly and Comprehensively Revealed Episymbiotic Microbial Communities of Deep-Sea Squat Lobsters (共著)

Am Soc Microbiol, vol. 5, e00551-20 (2020). (令和2年10月)

【概要】

生物のRNAは非常に分解されやすいことから、環境微生物学においてRNA解析を行う場合にはサンプリング直後にRNAを固定し、その分解を防ぐことが望まれる。そこで、本論文では新たに開発した装置を用いて深海微生物のRNAを現場固定したものと船上固定もので比較解析した。その結果、どのような細菌が固定方法に影響を受けるのかを明らかにした。

担当部分：研究計画、現場RNA固定法の開発と実施、論文の校閲を担当した。

Watsuji, T.-o., Naka, A., Morita, Y. and Kurahashi M.

Effect of temperature and dissolved oxygen on gravity sedimentation of the unicellular alga *Dunaliella salina* (共著)

Ann. Microbiol. vol. 71, Article number: 25 (令和3(2021)年7月)

【概要】

微細藻類バイオマスは有望なバイオ燃料と注目されるが、培養後に微細藻類を回収するコストの高さが障壁となっている。本論文では、微細藻類であるドナリエラの重力沈殿による回収率を好気条件と嫌気条件で経時的に観測した。そして、ドナリエラの回収率に酸素濃度は影響しないことや遮光するだけで効果的にドナリエラの沈殿物を得られることを示した。

担当部分：研究の発想、計画、実施、論文の執筆を行って第一著者になった。

【その他論文等】

「**深海外部共生研究分野の成果と展望**」(単著)

日本微生物生態学会誌, vol. 32, pp. 4-5. (平成29年4月)

【概要】

深海外部共生研究の長年の謎であった外部共生菌の化学合成性機能や栄養源としての役割をゴエモンコシオリエビを用いて解き明かしてきた歴史と今後の深海外部共生研究の展望を述べた。

トピックス「**深海で営まれる未知の“農業”、餌を自家栽培するエビ**」(単著)

バイオサイエンスとインダストリー, vol. 76, pp. 38-39. (平成30年1月)

【概要】

これまでに宿主動物が付着性化学合成細菌の代謝活性を促進させる実験的証拠はなかった。本論文ではゴエモンコシオリエビが付着性化学合成細菌に与えて、その代謝活性を促進させることを実験室レベルで証明したことやゴエモンコシオリエビが餌となる付着性化学合成細菌を宿主動物が栽培する可能性が高いことを述べた。

目で見るバイオ「**深海エビに摂食された腸内細菌を見る**」(単著)

バイオサイエンスとインダストリー, vol. 76, pp. 8-9. (平成30年1月)

【概要】

ゴエモンコシオリエビの腹側の体毛に付着する外部共生菌をクリスタルバイオレットで青く染めてから24時間飼育すると、ゴエモンコシオリエビの腸内に染色菌体が見出された。この方法でゴエモンコシオリエビが外部共生菌を食べていることを直接的に証明したことを述べた。

milsil 「**自分の体で細菌を育てて食べる！？ゴエモンコシオリエビ**」(単著)

国立科学博物館情報誌, vol. 16, No. 5, pp. 26-29. (令和5年9月)

【概要】

これまでにゴエモンコシオリエビが、腹側の体毛に付着する外部共生菌をエサとして食べることを実証した。そして、本誌ではゴエモンコシオリエビが外部共生菌に積極的に水流を与えて育てていることを実験室レベルで証明したことを述べた。

【学会発表等】

**「ゴエモンコシオリエビと共生する活動的なメタン酸化細菌の多様性とメタン酸化活性」**山本麻未, 上田賢志, 川口慎介, 高井研, 和辻智郎

Blue Earth 2013、東京 (平成 25 年 3 月)

「深海底熱水活動域に生息する化学合成微生物の分布様式と集団構造の解明」

美野さやか, 中川聡, 牧田寛子, 宮崎淳一, 和辻智郎, ほか 12 名

Blue Earth 2014、東京 (平成 26 年 2 月)

「硫化水素添加水槽を用いたシロウリガイの飼育」長井裕季子, 豊福高志, 野牧秀隆, 和辻智郎, 生田哲朗, 高木善弘, 吉田尊雄, 滋野修一,
井上広滋, 小西正朗

Blue Earth 2014、東京 (平成 26 年 2 月)

「シチヨウシンカイヒバリガイ共生系は実験室でも化学合成できるのか?」長井裕季子, 豊福高志, 野牧秀隆, 和辻智郎, 生田哲朗, 高木善弘, 吉田尊雄, 滋野修一, 井上広滋, 小西正朗
日本地球惑星科学連合 連合大会 2014 年大会、横浜 (平成 26 年 4 月)**"Global biogeography and population structure of deep-sea vent chemolithoautotrophs inferred from multilocus sequence analysis (MLSA)"**Mino S., Nakagawa S., Makita H., Toki T., Miyazaki J., Kato S., Watsuji T.-o. ほか 7 名

ISME15, Seoul, South Korea (平成 26 年 8 月)

「ゴエモンコシオリエビに共生する微生物の役割とは?」和辻智郎, 山本麻未, 元木香織, 上田賢志, 羽田枝美, 高木善弘, 川口慎介, 高井研

第 54 回 生命科学夏の学校、湖西 (平成 26 年 9 月)

「ゴエモンコシオリエビのエサは胸毛に飼うバクテリアである」和辻智郎, 山本麻未, 元木香織, 上田賢志, 羽田枝美, 高木善弘, 川口慎介, 高井研

環境微生物系学会合同大会 2014、浜松 (平成 26 年 10 月)

「共生メタン酸化細菌を維持させてゴエモンコシオリエビを飼う」元木香織, 山本麻未, 長井裕季子, 羽田枝美, 上田賢司, 豊福高志, 高井研, 和辻智郎

Blue Earth 2015、東京 (平成 27 年 3 月)

「硫化水素添加水槽を用いたシロウリガイ類飼育」長井裕季子, 豊福高志, 多米晃裕, 植松勝之, 和辻智郎, 生田哲朗, 高木善弘, 吉田尊雄, 小西正朗

Blue Earth 2015、東京 (平成 27 年 3 月)

"Habitat segregation in transition zones at hydrothermal vent fields in the Okinawa Trough, northwestern Pacific"Watanabe H., Yamamoto M., Yahagi T., Ogura T., Takahashi Y., Nakamura M., Seo M., Miyake H., Kojima S.,
Watsuji T.-o., Takai K., Ishibashi J. and Fujikura K.

14th International Deep-Sea Biology Symposium, Aveiro, Portugal (平成 27 年 8 月)

「メタン添加水槽におけるゴエモンコシオリエビの外部共生菌の変遷」元木香織, 和辻智郎, 山本麻未, 羽田枝美, 長井裕季子, 豊福高志, 上田賢司, 高木善弘, 高井研.

2015 年度海洋若手会 東京大学大気海洋研究所 (ベスト発表賞受賞) (平成 27 年 8 月)

「沖縄トラフ伊平屋北海丘の人工熱水孔を利用した黒鉱養殖プロジェクト」野崎達生, 石橋純一郎, 島田和彦, 長瀬敏郎, 高谷雄太郎, 加藤泰浩, 川口慎介, 和辻智郎, 渋谷岳造, 山田亮一,
猿橋具和, 許正憲, 高井研

日本地質学会第 122 年学術大会、長野 (平成 27 年 9 月)

「沖縄トラフ伊平屋北海丘の人工熱水孔を利用した黒鉱養殖プロジェクト」野崎達生, 石橋純一郎, 島田和彦, 長瀬敏郎, 高谷雄太郎, 加藤泰浩, 川口慎介, 和辻智郎, 渋谷岳造, 山田亮一,
猿橋具和, 許正憲, 高井研

日本地球化学会第 62 回年会、横浜 (平成 27 年 9 月)

「深海底熱水活動域に生息する化学合成独立栄養細菌の集団遺伝学: 遺伝的多様性と分布パターンの解明」美野さやか, 中川聡, 牧田寛子, 宮崎淳一, 加藤真悟, 和辻智郎, 井町寛之, 布浦拓郎, Sievert Stefan,
Godfroy Anne, 高井研, 澤辺智雄

第 30 回日本微生物生態学会大会、土浦 (平成 27 年 10 月)

「ノホサイトの紹介」



宮崎淳一, 高井研, 宮崎征行, 北田教也, 笠谷貴史, 山本正浩, 蝦名直也, 元木香織, 和辻智郎, Chen Chong, 石橋純一郎, 戸塚修平, 平敷紗和子, 眞壁明子, 奥村知世, 中村謙太郎, 川口慎介, 熊谷英憲
InterRidge-Japan 研究集会、柏市 (平成 27 年 11 月)

"Rapid growth of mineral deposits at artificial seafloor hydrothermal vents"

Nozaki T., Ishibashi J., Shimada K., Toshiro N., Takaya Y., Kato Y., Kawagucci S., Watsui T.-o., Shibuya T., Yamada R., Saruhashi T., Kyo M. and Takai K.
Goldschmidt2016, Yokohama, Japan (平成 28 年 7 月)

"The effect of environmental conditions on the composition of epibiotic community associated with deep-sea crustaceans"

Motoki K., Hada E. Nagai Y., Takaki Y., Yamamoto A., Ueda K., Toyofuku T., Takai K. and Watusji T.-o.
ISME16, Montreal, Canada (平成 28 年 8 月)

"Morphological characterization of deep-sea endemic crab ventral setae"

Fujiyoshi S., Watsui T.-o., Sawayama S. and Nakagawa S.
5th International workshop on deep sea microbiology, Kyoto, Japan (平成 28 年 9 月)

"What regulated abundance of the dominant species in the epibiotic community on the deep-sea crustaceans?"

Motoki K., Watsui T.-o., Yamamoto A., Hada E., Nagai Y., Toyofuku T., Ueda K., Takaki Y., and Takai K.
Extremophiles2016, Kyoto, Japan (平成 28 年 9 月)

「深海底熱水活動域に普遍的に生息する化学合成独立栄養細菌の生物地理学的特徴の解明」

美野さやか, 中川聡, 牧田寛子, 工藤桃李, 宮崎淳一, 稲垣史生, 加藤真悟, 布浦拓郎, 井町寛之, 和辻智郎, 高井研, 澤辺智雄
第 31 回日本微生物生態学会大会、横須賀 (平成 28 年 10 月)

「深海底熱水活動域に生息する固有甲殻類の共生器官“腹部剛毛”の構造的特徴」

藤吉奏, 和辻智郎, 澤山茂樹, 中川聡
第 31 回日本微生物生態学会大会、横須賀 (平成 28 年 10 月)

「ゴエモンコシオリエビの外部共生菌相を用いた環境影響評価方法の構築」

和辻智郎, 元木香織, 羽田枝美, 長井裕季子, 高木善弘, 豊福高志, 山本啓之, 高井研
第 31 回日本微生物生態学会大会、横須賀 (平成 28 年 10 月)

"Compositional and functional shift in epibiotic bacterial community of hydrothermal vent crab during methane-fed rearing"

Motoki K., Hada E., Nagai Y., Takaki Y., Yamamoto A., Ueda K., Toyofuku T., Yamamoto H., Takai K. and Watsui T.-o.
9th ASME, Busan, South Korea (平成 29 年 4 月)

「現場 RNA 固定装置を用いた深海動物の外部共生菌のメタトランスクリプトーム解析」

元木香織, 高木善弘, 徳田真紀, 笠谷貴史, 高井研, 和辻智郎
第 5 回研究会 仙台 (平成 29 年 5 月)

「ゴエモンコシオリエビを用いて外部共生細菌と深海動物の関係性を探る」

和辻智郎
第 19 回マリンバイオテクノロジー学会 仙台大会 (平成 29 年 6 月)

「ゴエモンコシオリエビを用いて外部共生細菌と深海動物の関係性を探る」

和辻智郎
第 19 回マリンバイオテクノロジー学会 仙台大会 (平成 29 年 6 月)

「深海性甲殻類の外部共生菌叢の生態をメタトランスクリプトーム解析で解明する」

元木香織, 和辻智郎, 高木善弘, 徳田真紀, 笠谷貴史, 高井研, 岩崎渉
第 32 回日本微生物生態学会大会、沖縄 (平成 29 年 7 月)

"In situ metatranscriptomics reveals physiology of chemosynthetic ecto-symbiosis of the deep-sea squat lobster, Shinkaia crosnieri"

Motoki K., Watsui T.-o., Takaki Y., Tokuda M., Kasaya T., Takai K. and Iwasaki W.
7th International Symposium on Microbial Ecology, Leipzig, Germany (平成 30(2018)年 8 月)

「深海無脊椎動物外部共生細菌叢のロングリードメタゲノミクスによる微生物ゲノム構造進化過程の解明」



	元木香織、和辻智郎、豊田敦、高井研、岩崎渉 第34回日本微生物生態学会大会、新潟（令和3年10月）	
特許等	水生生物の飼育システムとその飼育方法 JP5999848B2（日本）	（平成28年9月）
	<i>Aquatic organism rearing system and aquatic organism rearing method</i> US9603345B2（米国）	（平成29年3月）
	<i>Aquatic organism rearing system and aquatic organism rearing method</i> EP2764774B1（欧州）	（平成30年3月）
	好塩性微細藻類の回収方法 JP2018102158A（日本）	（令和6年2月）
受賞歴	海洋研究開発機構にて研究開発功績賞の受賞	（平成27年4月）



所 属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担 当 科 目	<p>[短大食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳・総合的な学習及び特別活動 ・ 教育原理 ・ 教育課程論 <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育方法論 ・ 教職概論 ・ 教職実践演習 (栄養教諭) <p>-----</p> <p>[大学食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳教育の理論と方法 <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育課程論 ・ 教育方法論 <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職実践演習 (栄養教諭) <p>-----</p> <p>[大学理学療法・作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療人のための教育学Ⅰ (前期) ・ 医療人のための教育学Ⅱ (後期) <p>-----</p> <p>[大学院]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リハビリテーション教育学Ⅱ (大学院2年前期)
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教育学 ■ 特別活動分野 学級経営 食に関する指導
最 終 学 歴	鹿児島大学 教育学部特別教科保健体育教員養成課程 卒業
学 位	教育学士
職 歴	<p>福岡県宇美町立宇美東小学校教諭 (昭和54年4月～昭和62年3月)</p> <p>福岡県新宮町立相島小学校教諭 (昭和62年4月～平成元年3月)</p> <p>福岡教育大学附属福岡小学校長期間派遣研修員 (平成元年4月～平成2年3月)</p> <p>福岡県新宮町立新宮小学校教諭 (平成2年4月～平成7年3月)</p> <p>福岡県教育庁福岡教育事務所指導主事 (平成7年4月～平成10年3月)</p> <p>福岡県教育庁教育振興部義務教育課指導主事 (平成10年4月～平成14年3月)</p> <p>福岡県宗像市立東郷小学校教頭 (平成14年4月～平成17年3月)</p> <p>福岡県宗像市教育委員会主幹指導主事 (平成17年4月～平成21年3月)</p> <p>福岡県宗像市立玄海東小学校校長 (平成21年4月～平成26年3月)</p> <p>福岡県教育センター教育経営部長 (平成26年4月～平成27年3月)</p> <p>福岡教育大学教育学研究科教育実践専攻 教授 (平成27年4月～令和5年3月)</p> <p>○子供のキャリア発達支援 担当</p> <p>○特別活動・総合的な学習の時間の実践と課題 担当</p> <p>○特別活動の指導法 担当</p> <p>学校法人東筑紫学園東筑紫短期大学食物栄養学科教授 (令和5年4月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>○昭和54年4月から平成27年3月まで、福岡県公立小学校教諭、教頭、校長、県教育委員会指導主事、宗像市教育委員会指導主事、研教育センター部長を勤める。</p> <p>○平成27年4月から令和5年3月まで、福岡教育大学教職大学院で現職教員、学部卒業生の指導にあたる。この間、九州工業大学、九州女子大学、福岡県立大学の非常勤講師を勤める。</p> <p>○特別活動、学級経営、食に関する指導を中心に、校内研修や各種研修会の指導、助言を勤める。</p> <p>○平成20年度、29年度改訂の学習指導要領解説特別活動編や食に関する指導の手引き～第二次改訂版～の作成協力者を勤める。</p>
主な研究活動	<p>【著 書】</p> <p>1. 学校力アップとカリキュラム・マネジメント (共著) 学校図書一般財団法人学校教育研究所編 (平成25年3月) (概要)「学級の荒れ」への対応は、学校がチームとなって「教師が中心となって生活や学習のルール</p>



を教える方策」と「学級や学校の子供たちを関わらせる方策」をバランス良く行うことが効果的であることの提案。(執筆担当部分：第5章教師の指導力アップへの取り組み「学級の荒れ」への対応について) 著者：児島邦宏・脇田哲郎 他

2. 仲よく助け合う、楽しい学級をつくる1年生学級経営
(共著) 小学館(平成25年3月)

(概要) 4月から3月までの1年生の学級経営について13pを担当した。脇田哲郎(玄海東小学校長)他16名による共著。1年生の学級経営について(4月)学級経営の指針(5/6月)学級目標の設定(7/8月)1学期の評価(9/10月)2学期のスタート(11/12月)学力と評価(1/2月)3学期の学級開き(3月)学級経営案の見直しについて説明。

3. 学校の評価・自己点検マニュアル追録第13号
(共著) ぎょうせい(平成25年7月)

(概要) 追録集に新たに付加する1549p~1549.5pとして「学級崩れをどうしたら防ぐことができるか」を担当した。高階玲治(教育創造研究センター所長)他8名による共著。授業中の勝手な立ち歩きや勝手な言動で授業が成立しないなどの「学級くずれ」に対応するために「教師が中心となってルールを教える取組」と「特別活動で子供相互のかかわりを深める取組」をバランスよく行うことが効果的であることを報告した。

4. 入門特別活動理論と実践で学ぶ学級・ホームルーム担任の仕事
(共著) 学事出版(平成26年4月)

(概要) 特別活動を核とした学校経営についての実践を報告した。P143~p158を担当。佐々木正昭(甲子園大学特任教授)他7名による共著。荒れた学校の立て直しに学級活動(1)、児童会活動、学校行事のもつ教育的効果を機能させた。その結果、子供達相互のかかわりの深まり、職員の意識の変容、地域や保護者の学校教育への理解の高まりなどの効果が見られたことを報告した。

5. 特別活動指導資料楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)
(共著) 国立教育政策研究所教育課程研究センター(平成26年4月)

(概要) 小学校特別活動指導資料全103pのうち16pを担当。杉田洋(文部科学省視学官)他11名による共著。平成25年7月に発行された小学校特別活動リーフレットの解説書としての指導資料において総論と児童会活動を担当した。総論では、特別活動と「各種〇〇教育との関係」「いじめの未然防止」「学力向上」「自己有用感の形成」についてまとめた。また、児童会活動においては「年間指導計画」や「いじめ防止対策推進法との関係」などについてまとめた。

6. 「(再掲)」キーワードキャリア教育生涯にわたる生き方教育の理解と実践
(共著) 北大路書房(平成27年4月)

(概要) 小学校におけるキャリア教育は、低学年では「小学校生活への適応」、中学年では「友だちづくりや集団の結束づくり」、高学年では「集団の中での役割と自覚」「中学校への心の準備」をキャリア発達課題と設定し、それぞれの発達に応じて、人、社会、自然、文化とかわる体験的な活動を丁寧に設定する事の重要性を提案した。(執筆担当部分：第8章小学校におけるキャリア教育について) 著者：小泉令三・脇田哲郎他

7. 教育展望
(共著) 教育調査研究所(平成29年6月)

(概要) 「特集 新学習指導要領で教科はどのように変わるか2」のうち「特別活動の改訂の特色とポイント」について、子供たちの人格形成、これからの時代を生き抜く子供たちに必要な資質・能力の視点から提案した。(執筆担当部分：特集40pのうち4p) 著者：田村 学・脇田哲郎他

8. 小学校新学習指導要領ポイント総整理特別の教科道徳
(共著) 東洋館出版(平成29年6月)

(概要) 道徳教育及び道徳科における「カリキュラム・マネジメント」として「道徳教育を地域と一体となって推進することの必要性」や「地域と一体となって推進する道徳教育の具体的な方法」について提案した。(執筆担当部分：家庭や地域社会との共通理解、連携と授業の公開)について) 著者：永田繁雄・脇田哲郎他

9. 小学校新学習指導要領の展開特別活動編
(共著) 明治図書(平成29年6月)

(概要) 学級経営の充実と生徒指導の関連について、集団の場面で必要な指導や援助、個別に対応した指導を行うカウンセリングについて、学校適応を促進する主体的・対話的で深い学びの実現及び集団や社会の形成者としての見方・考え方について、障害のある児童への指導内容や指導方法の工夫について、提案した。(執筆担当部分：第3章指導計画の作成と内容の取扱いのポイントと解説について14p) 著者：杉田 洋・脇田哲郎他

**10. 小学校新学習指導要領ポイント総整理特別活動**

(共著) 東洋館出版 (平成 29 年 12 月)

(概要) 特別活動と生徒指導との関連について、特別活動におけるガイダンスとカウンセリングの考え方について、障害のある児童など学習活動の困難さに応じる対応について提案した。(執筆担当部分: CHAPTER4「内容の取扱い等」に関する解説について 20p) 著者: 杉田 洋・脇田哲郎他

11. キーワードで拓く新しい特別活動

(共著) 日本特別活動学会編 東洋館出版 (令和元年 8 月)

(概要) 第 1 章新学習指導要領への対応、特別活動と各教科等との関連「カリキュラム・マネジメントと特別活動」、第 3 章特別活動の内容・関連領域「儀式的行事」について提案した。(執筆担当部分: 全 200p のうち 4p を担当) 著者: 長沼 豊・脇田哲郎他

12. 校内研究の新しいかたちエビデンスにもとづいた教育課題解決のために

(共著) 北大路書房 (令和 2 年 9 月)

(概要) 第 1 章「学校の課題(ニーズ)をアセスメントする」第 8 章「報告(レポート)にまとめる」第 9 章「結果(エビデンス)を発信する(報告会を行う)」について提案した。(執筆担当部分: 全 177p のうち 30p を担当) 著者: 小泉令三・脇田哲郎他

13. 「(再掲)」アクティベート教育学 1 1 特別活動の理論と実践

(共著) ミネルヴァ書房 (令和 2 年 9 月)

(概要) 第 5 章「学級活動・ホームルーム活動の特質」について、目標と内容、学級活動・ホームルーム活動(1)(2)(3)の特質と指導法について WORK も挿入しながら提案した。(執筆担当部分: 全 238p のうち 16p を担当) 著者: 上岡 学・脇田哲郎他

14. 特別活動で学校が変わる Society5.0 時代に生きる“協働”する力の育成

(共著) 小学館 (令和 3 年 3 月)

(概要) 第 1 章総論において「学級会再考」として人格の形成に不可欠な教育活動として重要な位置を占めている学級会であるはずなのに、子供たちの問題意識が見られない活動になっているのではないかと問題提起をした。(執筆担当部分: 全 128p のうち 4p を担当) 著者: 杉田 洋・脇田哲郎他

15. 3時間で学べる「令和の日本型学校教育」Q&A

(共著) 明治図書 (令和 4 年 2 月)

(概要) Q28「特別活動の個別最適な学びと協働的な学びのポイントは」について、特別活動の各活動・学校行事の特質を踏まえた、発達の段階に応じた系統的な学びの実現が必要なことを提案した。(執筆担当部分: 全 133p のうち 4p を担当) 著者: 天笠 茂・脇田哲郎他

【学術論文】**1. 学級担任の学級会の指導に関する指導上の課題～教職員の意識調査から～**

(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第 6 号 (平成 28 年 1 月)

(概要) 本研究は、子供の成長に大きな役割を果たすと言われる特別活動への取り組みが、学校現場では積極的に行われていないという現状に対して、学級活動(1)の「学級会」について在籍校の教職員の意識調査を通して明らかにしようとした。その結果、特別活動の教育的な意義は理解しているながらも、具体的な指導法がわからないという教職員の意識が見えてきた。

著者: 後藤和歌子, 脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

2. 若年教師の学級経営に関する課題の究明-アセス調査と教師の子供への言葉かけの調査を通して-

(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第 7 号 (平成 29 年 1 月)

(概要) 本研究は、円滑な学級経営が行われていない若年教師の学級経営の問題点を探り、若年教師の学級経営力を向上させるためのコンサルテーションを行った。支援の結果子供とのコミュニケーション能力の向上や子供理解をはじめとする学級経営の機能的な部分を改善できた。

著者: 山本克代, 脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

3. 在籍中学校におけるキャリア教育の現状と課題-教師と生徒のキャリア教育に関する意識調査から-

(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第 7 号 (平成 29 年 1 月)

(概要) 本研究は、次期学習指導要領にキャリア教育の要として位置付けられる学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」の実施に向け、職場体験学習だけがキャリア教育として捉えられてきた在籍校の実施状況を見直し、キャリア教育と他教科との関連や具体的な授業づくりに課題があることが分かった。著者: 森 沙織, 脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

4. 教職大学院における「特別活動の理論と実践」の授業提案-実践的指導力を育成する内容構成を通して-

(単著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第 8 号 (平成 30 年 1 月)

(概要) 本研究は「特別活動の理論と実践」『科目コード: D2041800・単位: 2 単位・対象: 教育実践力開発コース 1 年・必修・講義演習』(以下, 本科目)の授業をもとに、教職大学院における本科目の効果的な授業のあり方を提案するものである。授業では、学級活動(1)の話し合い活動(以下, 学



級会)の実践的指導力の育成を目指して、学級会の授業を「見る」「つくる」「実践する」活動で構成するなど本科目の授業の進め方の一事例を提案できた。

5.学級活動1を柱にした校内研究の推進に関する課題-学級活動1)に関する教師の意識、児童のアセス調査から-
(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第8号(平成30年1月)

(概要)本研究は、人間関係の希薄さからくる児童の課題を校内研究を柱に解決しようとしたものであり、教師の意識と児童の実態調査をもとに具体的な校内研究の内容と実施計画を設定した。その結果、研修組織の再編化や、日常的な実践の継続化、年間指導計画の見直しなど具体的方策の必要性が明らかになった。著者：池上詠子、脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

6.意思決定に導く学級活動(3)の授業づくり～「見付ける・決める」段階の工夫を通して～
(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第9号(平成31年1月)

(概要)北九州市立A中学校の第2学年の子ども達を対象に、中学校学習指導要領(平成29年告示)解説特別活動編に示されたキャリア教育の「要」としての学級活動(3)において、子ども達ひとりひとりが個性豊かな“意思決定”を行えるように、「見付ける」・「決める」段階の工夫を行い、子ども達を意思決定に導くガイダンス授業として、その工夫が効果的であるか検証した。

著者：近藤彰信 脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

7.学級経営の充実資する小学校係活動の研究-居心地の良い集団による遊びを基盤とする活動を通して-
(単著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第9号(平成31年1月)

(概要)本研究は、小学校学習指導要領解説特別活動編(平成29年告示)に示された、自発的・自治的な活動として係活動を中心に学級経営の充実を図る場合、どのような活動が学級経営の充実につながるのかを明らかにしようとした。福岡県内の小学校5学級に協力を依頼し、学級経営の充実に結びつく係活動を究明した。その結果、学級内の対人的適応は向上し学級経営の充実に効果が見られた。

8.若手教員の学級活動(3)の授業力向上を目指す研究-学級活動3)プランニングシートを活用したコンサルテーションを通して-
(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第10号(令和2年1月)

(概要)本研究は、若手教員のキャリア教育の要としての学級活動(3)の授業力の向上を目指して、授業構想援助シート学級活動(3)プランニングシートを活用したコンサルテーションを行ない授業づくりに対する苦手意識を払拭しようとした。その結果、若手教員の授業力や授業に対する抵抗感が減少するとともに、学校全体でキャリア教育を充実させ、系統的にキャリア形成を図っていくための基盤を作ろうとする体制づくりが整った。著者：中村雅司、脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

9.エジプトの日本式学校(EJS)におけるTOKKATSU導入の現状課-TOKKATSUセミナーと授業研究会、保護者セミナーを通して-
(単著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第10号(令和2年1月)

(概要)本研究は、2019年3月と同年12月に訪問したエジプト国ルクソール地方とカイロ市、ハルガダ市の特別活動(以下、特活(TOKKATSU))を中心とする日本式学校(以下、EJS(Egyptian Japanese Schools))で実施された特活セミナーと授業研究会、保護者セミナーから見えてくる導入の現状と課題を整理し、今後のEJSの在り方を探るものである。その結果、保護者にはEJSの教育的な効果が認識されてきているのが分かった。

10.自発的・自治的活動といじめの未然防止との関連に関する一考察-学級の人間関係に関する議題を話し合う学級会を通して-
(単著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第10号(令和2年1月)

(概要)本研究は、学習指導要領(平成29年告示)に示された「学級経営の充実やいじめの未然防止等」につながる「自発的・自治的な活動」としての学級会に視点を当て、どのような学級会が学級経営の充実やいじめの未然防止に機能するのか学級会を指導した担任への聴取と学級会の発言記録から、教師が学級会の教育的な効果を信じて、積極的に子供たちに話し合いをさせていることや児童の状態を見極め、発生した問題の今後の影響を見通していることが確認できた。

11.子供の学校適応を促進する学級活動(1)の研究-子供に任せる活動の充実を通して-
(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第11号(令和3年1月)

(概要)本研究は「荒れた」学級の立て直しに、白松(2014)の『学級づくり方』学級経営領域の「子供に任せる活動」を中心に話し合い活動を実施した。その結果、学級の喧嘩や揉め事の数値が有意に下降した。又、困ったことは話し合いで解決している、他の当番や係に協力している、何でも言えるという数値が有意に上昇し学級適応が促進したことが明らかになった。

著者：柳井文陽、脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

12.豊かな友達づくりにつながる学級活動(1)の研究-人間関係の向上に係る課題の解決を通して-
(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第11号(令和3年1月)

(概要)本研究は、子供たちの豊かな友達づくりを目指し、学級活動(1)において、人間関係の向上に係る課題についても話し合い、解決する実践を行うことが、子供たちの友達との関係づくりにどのように影響するかを検討した。その結果、人間関係の向上に係る課題の解決の実践を積み重ねることは、豊かな友達づくりにつながることを示唆された。



著者：桑野美咲，脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

13. 自己の生活課題を改善する自己指導能力の育成—学級活動(2)で進める食に関する指導を通して—
(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第12号(令和4年1月)

(概要)本研究は、学力や体力の土台となる健康課題に関する自己指導能力の育成を目指し、児童が自主的・実践的な学びを促進する食に関する指導を学級活動(2)を研究領域として、その指導の在り方を検討した。その結果、児童が健康課題に関する行動目標を自己理解に基づいて意思決定したり、実践したりすることで自己指導能力の向上が見られた。

著者：門司隆宏，脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

14. 学級会デジタルコンテンツを活用した教員研修の一方途—学級会セルフチェックシートの開発を通して—
(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第12号(令和4年1月)

(概要)本研究は、学級担任の学級活動(1)に関する実践的指導力向上に寄与する教員研修の在り方を究明することを目指し、学級会デジタルコンテンツを活用した教員研修を実施し、効果を検証した。研究では、実践的指導力を自己評価する学級会セルフチェックシートを開発し、教員研修後に約半年のコンテンツ視聴期間を設けたのち、再度実施した調査では「自律性マネジメント」因子が有意に向上していた。著者：野中大輔，脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

15. 人間関係に関する議題を話し合う学級会を実施した担任の指導観—小学校教員へのインタビュー調査を通して—
(単著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第12号(令和4年1月)

(概要)本研究は、K市とN市の6年生で行われた学級会をもとに、子供たちの日常生活に見られる人間関係に関する問題を取り上げることによる学級担任がどのような指導観を保持しているのかを明らかにすることを目的に行った。その結果、担任の児童観「議題が生まれた背景」「子供が本気で話し合う議題」「子供や保護者への関わり」「子供の内面を知る」「学級会での学び」「学級会後の変化」「学級会での成長」という概念を明らかにすることが確認できた。

16. 院生の模擬授業指導に活用する評価の観点—熟達者の発言内容に着目して—
(単著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第12号(令和4年1月)

(概要)本研究は、院生の教員採用試験対策として行われる模擬授業の指導の際に活用できる評価の観点を明確にするために取組んだ。その結果「対象の学校種や学年の考慮」「アンケート結果や共通体験を想起させた導入」「児童生徒に質問したり対話したりする学習形態」「児童生徒から生まれる学習のめあて」「児童生徒の模擬授業主要テーマへの気づき」「児童生徒の言動への承認と称賛」「主題に迫るまとまりのある話」「児童生徒を引き付ける表情、声量、態度」の評価の観点を設定した。

17. 児童が自発的、自治的に企画・運営する係活動への担任教師の支援プロセスに関する質的研究—小学校教諭へのインタビューのM-GTAを用いた分析を通して—
(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第13号(令和5年1月)

(概要)本研究は、学級生活の向上のための活動目標の設定や目標達成のための役割分担、係を構成するメンバーと協働して実践する係活動に取り組みさせる担任教師の支援プロセスを明らかにするためにM-GTAを用いてインタビュー内容を分析し、28の概念を生成し、それらを12のサブカテゴリーにまとめ、さらに5つのカテゴリーに統合した。著者：澤山 愛，脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

18. 学級活動(2)に心理教育プログラムを導入するときの留意点—自己の生活課題を解決するための授業づくりを通して—
(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第13号(令和5年1月)

(概要)本研究は、学級活動(2)に心理教育プログラムの効果的な導入について検証したものである。分析は、実践授業中の児童の会話や頑張りカードの記述、知識・技能を図るためのテストの結果等から行った。その結果、児童が自分事として捉えることができるように、つかむ段階での工夫を行い、「もっとよくしたい」、「解決したい」という意欲をもたせるということが大きく影響することが明らかになった。著者：鳥原美有，脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

19. 特別支援学級における学級活動(1)(2)(3)の可能性—合理的配慮の視点から—
(共著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第13号(令和5年1月)

(概要)本研究は、中学校の特別支援学級の生徒に意思決定、意思表示、合意形成をする学級活動(以下、学活)(1)(2)(3)の授業を通して、合理的配慮の視点である「意思決定する力」、「意思表示する力」、「合意形成する力」の育成を試みたものである。その結果、特別支援学級の生徒に対して、意図的・計画的に学活(1)(2)(3)の授業を行うことは、将来、生徒が合理的配慮を得る際に必要な力の育成につながるということが分かった。著者：藤本凜音，脇田哲郎が研究の実際と考察を指導

20. 学級活動の各内容の特質に応じた授業援助—学級活動(1)(2)(3)プランニングシートを通して—



(単著) 福岡教育大学大学院教職実践専攻年報第13号(令和5年1月)

(概要) 本研究は、特別活動の授業として教育課程に位置付けられている学級活動(以下、学活)(1)(2)(3)の授業づくりを援助するために学活(1)(2)(3)プランニングシート(以下、PS)を各学活の特質と学習過程に照らして作成し、その効果を検証した。その結果、現職教員には、学活の指導案の代わりになる、授業をプランニングしやすいなどの評価が得られた。また、院生や学生は授業が作りやすい、考えやすいなどの感想があった。

21. OECD ラーニング・コンパスに照らした学級活動(2)で進める食に関する指導モデル

(単調) 東筑紫短期大学研究紀要第54号:(令和5年10月)

(概要) 学習指導要領では、コンピテンシーに相当するものを「資質・能力」とし「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を各教科で育成することとしている。VUCAな時代と言われる変化の激しい社会にあって、主体的にあるべき未来を創り上げていく力の育成が児童生徒に求められるからである。コンピテンシーの概念は、OECDのDeSeCoプロジェクトで整理されたが、その時、示されたのがラーニング・コンパスである。食に関する指導では、どのように考えていけばいいのか授業モデルを考察した。

【学会発表】

1. 「自発的、自治的活動を中心とした学級経営の充実」

〈主催〉日本特別活動学会

〈開催場所〉武蔵野大学

〈開催年月日〉平成30年8月25、26日

(概要) 日本特別活動学会第27回大会

平成29年告示学習指導要領に示された「自発的、自治的活動を中心とした学級経営の充実」を受け、学級経営の充実につながる係活動は、メンバー構成は子供任せにせず、教師が児童の人間関係に注意を払うことや教師のお手伝いではない児童の創意工夫を十分に生かした活動内容が求められる事を発表した。

2. エジプトルクソール地方のEJSにおけるTOKKATSU導入の現状～TOKKATSUセミナーと授業研究会を通して～

〈主催〉日本特別活動学会

〈開催場所〉沖縄大学

〈開催年月日〉令和元年9月14、15日

(概要) 日本特別活動学会第28回大会

Egyptian Japanese Schools(以下、EJS)で、全人的な教育を行う日本式教育を導入しているエジプト国を2019年3月31日～4月3日に訪問し、そこで参加した「特活セミナー」「授業研究会」から、今後のエジプト人のエジプト人による特活推進の可能性について考察し発表した。

3. 自発的・自治的活動といじめの未然防止との関連に関する一考察～学級の人間関係に関する議大を話し合う学級会を通して～

〈主催〉日本特別活動学会

〈開催場所〉岡山大会(Web開催)

〈開催年月日〉令和12年年12月12日

(概要) 日本特別活動学会第29回大会

平成29年告示学習指導要領に示された「自発的、自治的活動を中心とした学級経営の充実」を受け、どのような話し合い活動が学級経営の充実やいじめの未然防止につながるか、福岡県内で行われた二つに学級会をもとに考察した結果を発表した。

4. 学級経営の充実やいじめの未然防止に機能する学級会

〈主催〉日本特別活動学会

〈開催場所〉東京大会(Web開催)

〈開催年月日〉令和3年8月21、22日

(概要) 日本特別活動学会第30回大会

課題研究の第4分科会「特別活動の全体計画、内容ごとの目標達成に関わる教育機能(学級・学年・学校経営、生徒指導)の今後の方向性」について、学級会で話し合う議題は、子供たちの内面まで深く掘り下げたものであることが重要であり、議題ポストだけではなく子供のつぶやきや日記などからも議題化する指導計画の必要性について発表した。



主な社会活動	<ul style="list-style-type: none">・令和3年度免許更新講習学級活動で進める食に関する指導（令和3年7月） 本講習では、平成29年度告示小、中学校学習指導要領に示された、学級活動(2)に示された「エ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成（小学校）」「オ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成（中学校）」において、自己の食に関する課題に気づき、課題解決のための方法を集団思考し、自己の解決方法を意思決定する学習を、食育プランニングシートで構想するとともに、食に関する自己指導能力の育成について指導した。・令和4年度福岡県教育職員免許法認定講習特別活動の指導法（令和4年8月） 本講習は、教育職員免許法及び同法施行規則の規定に基づき、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種・二種免許状、中学校・高等学校教諭一種免許状、養護教諭一種免許状、栄養教諭一種・二種免許状及び特別支援学校教諭二種免許状を取得させるために必要な単位を修得させるとともに、現職教員の資質の向上を図ることを目的に実施されるもので、食育を含む特別活動について指導した。・日本特別活動学会第31回研究大会実行委員長（令和4年8月）
主な社会活動	日本特別活動学会（平成15年8月～現在に至る） 日本学校心理学会（平成29年1月～現在に至る）
所属学会	なし
受賞歴	なし

所属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担当科目	<p>[保育学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育心理学 ・発達心理学 ・心理学 <p>[食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育心理学 ・生徒指導と教育相談
専門分野	<p>■心理学</p> <p>■認知心理学・実験心理学分野</p>
最終学歴	九州大学・大学院博士課程 文学研究科/心理学専攻 単位取得満期退学
学位	文学博士
職歴	<p>佐賀女子短期大学 専任講師 (1984年4月～1987年3月) ○心理学・教育心理学・乳幼児心理学・児童心理学の担当</p> <p>佐賀女子短期大学 助教授 (1987年4月～1993年3月) ○心理学・教育心理学・乳幼児心理学・老人障害者心理学の担当</p> <p>福岡県立大学 助教授 (1993年4月～1996年9月) ○知覚心理学・認知心理学・実験測定法の担当</p> <p>福岡県立大学 教授 (1996年10月～2019年3月) ○学部：知覚心理学・認知心理学・実験測定法Ⅰ・Ⅱ・教育心理学概論 大学院：認知心理学研究・認知心理学演習・特別研究の担当</p> <p>福岡県立大学 特任教授 (2019年4月～2024年3月) ○学部：教育心理学概論の担当 大学院：子どもの心理研究・子どもの心理演習・教育課題研究・演習、子どもの教育実践研究、特別研究Ⅰ・Ⅱの担当</p> <p>東筑紫短期大学 特任教授 (2024年4月～現在にいたる) ○発達心理学・教育心理学・心理学の担当</p>
教育上の業績	○ ICTを利用して授業資料をクラウドに保存し、受講生は、いつでもどこでも資料にアクセスできるようにした。資料内にはURLを載せ、受講生がURL内の情報を読むことでさらに深い理解を目ざした。授業に対するコメントを求め、翌週の授業でフィードバックもクラウドに保存し、学生同士の理解がさらに広がっていくことを目ざした。
主な研究活動	<p>【著書】</p> <p>1. 生理心理学と精神生理学Ⅰ 北大路書房 2017年3月 堀忠雄・尾崎久記(監修) 坂田省吾・山田富美雄(編集), 福田恭介ら37名 (概要) 生理心理学誕生の歴史的経緯から、研究法の基礎的内容までを重点的に解説し、動物実験も含めた脳と行動の関係、および身体各部位の生体反応の計測技術と解析方法について詳述したものである。福田は、第12章「視覚・運動系」Pp.223-241の編集を担当し、第1節「眼球運動」、第2節「瞳孔運動」Pp.223-231を執筆した。</p> <p>2.ペアレントトレーニング実践ガイドブックーきょうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版 2018年9月 福田恭介(編著) 福田恭介・吉岡和子・中藤広美・小嶋秀幹・興津真理子・本多潤子・中山政弘・村上ゆき・森下万貴子・木藤亜紀(イラスト) (概要) 福岡県立大学で行われたペアレントトレーニングについて、保護者(親)支援から、保育者・教師の支援、さらには地域支援まで広げていくあり方を考えた本。福田はすべてのページ(Pp.256)にわたって編</p>



集と執筆を行った。

3. 心理学概論—基礎から臨床心理学まで ふくろう出版 2020年9月

宇津木成介・橋本由里(編著), 福田恭介ら 13名

(概要)

客観的な心の機能を学ぶことから始めて、他者と自分自身の心の理解につなげる。大学で初めて心理学を学ぶ学生を念頭に、心理学各分野の基本的知識を分かりやすく解説。福田はコラム2「ペアレントトレーニング」Pp.121-122を担当した。

4. 知覚と感覚の心理学 サイエンス社 2022年11月

原口雅浩(編著), 福田恭介ら 10名

(概要)

人や動物は、感覚器官を通じて外界の情報を獲得し、それらは神経細胞を経て脳に伝わる。脳に伝わった情報によって私たちはものを認識し、想像したり身体を動かしたりする。そのような知覚・感覚とよばれる心のはたらきについて述べられている。福田は、第1章生理心理学(Pp.1-21)を担当し、とくに目の生理的機能と心理的機能の関係について論述した。

【学術論文】

5. 感情語提示時における大学生の瞳孔反応と抑うつ・不安との関連 2015年2月

福岡県立大学人間社会学部紀要, 23(2), p. 33-44. 査読有 森 久美子・福田 恭介・松尾 太加志・志堂寺和則・早見 武人

(概要)

瞳孔散大は交感神経系の影響を受けている。3種類の感情語(漢字2文字 positive, negative, neutral)を呈示したときの瞳孔について、参加者の抑うつ・不安の程度によって変化が見られるかを検討した。参加者は、感情語が快か不快かをボタン押しによって判断した。その結果、反応時間は neutral 語に対してもっとも遅れ、瞳孔は negative 語の約1秒後にもっとも散大した。参加者の抑うつ・不安の程度による違いは見られなかった。これらのことから、瞳孔散大は negative 感情と関連し、さらに neutral 語に対する意思決定と関連していることが示された。福田は筆頭著者の指導教員として論文執筆に関わった。

6. ペアレントトレーニング手法を用いたスキルアッププログラムが保育者・教師の子ども支援認知に及ぼす効果 2018年3月

福岡県立大学心理臨床研究, 10, 11-21. 査読有 福田 恭介・小山 憲一郎・中村 恵美子・中藤広美・酒井 志織・香月 眞美

(概要)

ペアレントトレーニング手法を用いた5回のプログラムに参加した保育者・教師が参加の前後でどのように変化するかを検討した。その結果、プログラムに参加すると保育者・教師の子どもに対する行動理論の知識は増加し、子どもへの対応も変化することが示された。とくに、子どもの事例を紹介し、現場で実践した参加者ほど、子どもへの関わりの変化が大きいことが示された。このことから、プログラムを現場で実践していくと、保育者・教師の子どもへの対応や認知を変化させることが示唆された。福田は、プログラム実施、データ・統計解析、論文執筆に筆頭著者としてかかわった。

7. 「喉まで出かかっている」ときの瞬目の抑制と発生 2021年6月

心理学研究, 92(2), 122-128. 査読有 福田 恭介・水口 美咲・松尾 太加志・志堂寺 和則・早見 武人

(概要)

「喉まで出かかっている(TOT: Tip of the Tongue)」とは、よく知っている人や物の名前は思い出せないが、関連する情報や単語は思い出せるという現象である。まばたきは、情報を待つときや情報を入力したり処理したりするときには抑制され、処理段階の最後に起こる。しかし、まばたきとTOT状態との関係はまだ明らかではない。本研究では、TOT状態においてまばたきの抑制と発生のタイミングがどのように変化するかを調べた。有名人の顔写真と知らない人の顔写真を連続的に提示し、各写真の後の想起刺激中に人物の名前を挙げてもらった。参加者の反応は、「知らない」、「TOT」、「知っている」に分類された。その結果、まばたき抑制は、「知らない」反応では想起刺激待ちの間に起こり、TOT状態では起こらなかった。まばたきの抑制と発生は、記憶アクセス処理と関連していることが示された。福田は、第二著者の指導教員として論文執筆および学会誌投稿まで行った。

8. 自発性まばたき研究の40余年 2022年4月



生理心理学と精神生理学, 40 巻 1 号 p.22-38 査読有 福田 恭介

(概要)

これまで40年余りにわたるまばたき研究を振り返った。そこでは、3名の研究者が学会で集まり、そこからまばたき研究会を立ち上げ、「まばたきの心理学」という本を出版した。まばたき研究会では多くの研究者が、自らの研究を発表し、そこから多くのまばたき研究者が輩出されていった。まばたき研究には、まばたきの数量化が求められる。まばたき率、まばたき間隔、まばたき潜時、まばたき時間分布の4つについて紹介した。最近では、まばたきとドーパミンとの関連について取り扱う研究が増えてきている。将来のまばたき研究についての方向性について議論した。

9. 保育現場における行動分析による気になる子どもへの支援 2023年12月

福岡県立大学人間社会学部紀要, 32 巻 1 号 97-107 査読なし 赤星 裕子・福田 恭介

(概要)

保育現場において「気になる子ども」への支援策について検討した。一人の子どもの行動エピソードをいくつか取り上げて、約4ヶ月間にわたって観察・記録し、それらの行動についてA-B-C分析を行った。行動分析結果をもとに、保育者の言葉かけを変えたり、保育室の環境構成を変えたりした結果、子どもの行動が穏やかなものになっていっただけでなく、周りの子どもたちの本児への見方も変わっていった。子どもの行動を変えることに影響をもたらした要因や支援策について検討を行った。福田は、筆頭著者の指導教員として、論文の編集や論文の構成について支援した。

【学会発表】

1. The relationship between spontaneous eye blinks & cognitive processing.

〈主催〉The 17th World Congress of Psychophysiology

〈開催場所〉広島国際会議場

〈開催年月日〉2014年9月26日

(概要)

シンポジウム“Recent Research Topics on Eye Blink Behavior”において、瞬目と認知過程との関連について、これまで行ってきた研究をもとに話題提供を行い、USAの研究者 Terry Blumental と議論を行った。

2. 表情画像の呈示時間が瞬目発生に及ぼす効果

〈主催〉第33回日本生理心理学会大会

〈開催場所〉グランフロント大阪

〈開催年月日〉2015年5月23日

(概要)

真顔・笑顔・悲しみ・恐怖・驚きの5表情を瞬間提示したときの瞬目を測定した。その結果、呈示時間が短くなると正答率は低くなり、その中で悲しみ、恐怖の正答率が低かった。瞬目は、表情呈示の前後で瞬目抑制が見られ、表情提示後集中的に発生した。さらに回答直前で瞬目は抑制され、その後、瞬目は集中的に発生し。この瞬目集中発生は、表情認知と表情再生という2つの心理過程と関連していることが示唆された。

3. Go課題・No-Go課題時における発達障害児の瞬目変動

〈主催〉九州心理学会第77回大会

〈開催場所〉西南学院大学 松緑会館

〈開催年月日〉2016年12月3日

(概要)

Go・No-Go課題とは、Go試行ではできる限り速く反応し、No-Go試行では反応抑制を求めるもので、神経基盤が明確なので、瞬目発生・抑制と対応させやすく、発達との関連も明確にさせやすい。本研究では、発達障害児・定型発達児・成人にGo・No-Go課題に従事させ、その際の瞬目時間分布について検討した。その結果、No-Go課題時の瞬目率ピークは発達障害児ではGo課題時より遅れていることが示された。このことから、ボタン押し抑制に関与している前頭前野の活動低下が発達障害児で生じ、そのことが瞬目発生を遅らせていることが示唆された。

4. 瞬目発生のタイミングと心理過程

〈主催〉第35回日本生理心理学会大会

〈開催場所〉江戸川大学

〈開催年月日〉 2017年5月27日

(概要)

シンポジウム「生理反応測定と行動科学とのつながりー瞬目・自律系に注目してー」の中で話題提供を行った。そこではこれまで取り組んできた研究をもとに、反応抑制に伴う前頭前野のコントロールが瞬目発生タイミングまで影響することを示し、外界の情報が必要となったときは発生が抑制され、不必要になったとき発生する。このように瞬目は、脳活動をリセットしながら、環境に適応できるようにコントロールされ、他の生理活動ともつながった脳の活動であることを提言した。

5. ペアレントトレーニング手法を用いた保育者・教師のためのスキルアッププログラムへの参加形態による子どもへの態度変容ー子どもへの関わり・子どもの問題行動の頻度と困り感に着目してー

〈主催〉九州心理学会第79回大会

〈開催場所〉長崎大学

〈開催年月日〉2018年12月2日

(概要)

ペアレントトレーニング PT と略) とは、保護者に発達障害を持つ子どもの行動を観察・記録することを教え、子どもの不適切な行動を適切な行動に変えていけるように支援していく認知行動療法に基づいたプログラムである。PTにもとづいたスキルアッププログラムは、保育・教育現場で子どもの行動を日常的に観察できる保育者・教師にも有効なことが示されている。本研究では、プログラムに参加した67名のうち、プログラム前後のデータがそろっている55名について、講義のみを聴講した聴講群31名、講義を聴講し現場の子どもに試してみた実践群24名の間でプログラムの効果の違いを検討した。その結果、実践群の方が聴講群よりも、記録や予告を行うようになり、子どもの問題行動の頻度や困り感も減少傾向にあった。また実践群の方が行動理論の知識が上昇傾向にあった。このことからPTプログラムに参加するだけでなく子どもに実践するというより積極的な取り組みが適切な関わりや知識を増やすだけでなく子どもの行動に対する困り感も減少させることが示唆された。この発表は、当学会大会の優秀発表賞を受章した。

6. 話し手・聞き手における瞬目数・速度が印象形成に及ぼす影響

〈主催〉日本心理学会第83回大会

〈開催場所〉立命館大学・大阪

〈開催年月日〉2019年9月12日

(概要)

公募シンポジウム46 「操作されたまばたきで心を測る」の中で話題提供を行った。瞬目を独立変数として印象の変化を見た研究は少ない。本研究では、話し手・聞き手における瞬目数・速度が印象形成に及ぼす影響について検討した。その結果、瞬目が少ないほど積極的であるという印象を作り出した。さらに、瞬目の多い・少ないは一義的に印象に影響を及ぼすのではなく、瞬目の速度や話し手・聞き手の役割と相互作用をすることによって印象が異なることが示された。

7. Go/No-Go 課題時の瞬目発生・抑制の発達の検討

〈主催〉第40回日本生理心理学会大会

〈開催場所〉関西学院大学

〈開催年月日〉2022年5月28日

(概要)

予期や行動抑制に課題を抱えている発達障害児の瞬目の抑制・発生のタイミングを明らかにすることは、アセスメントと支援の手がかりになると考えられる。児童はWM (Working Memory) 容量が少なく、2.5秒間でGo実行やNo-Goによる行動抑制を次々に遂行していかなければならないため、成人に比べて課題成績が低下することが予想されるが、瞬目発生については明らかにされていない。本研究では、2種類のモグラたたきを模したGo/No-Go課題時の瞬目発生について、発達障害児 (DDC) 群9名、定型発達児 (TDC) 群10名、および成人 (ADP) 群12名を比較した。その結果、刺激呈示にともなう瞬目発生と刺激呈示直前の瞬目抑制は発達とともに顕著になることが示された。児童におけるWM容量の少なさと行動抑制の未熟さが瞬目発生と抑制に反映されている可能性が示された。

主な社会活動

- ・第36回日本生理心理学会大会長 (2018年5月)
- ・日本心理学会公開シンポジウム高校生のための心理学 (2019年11月)



	講座講師 ・佐賀女子短期大学生涯学習センター講師 (2021年7月) ・東九州短期大学地域連携子ども教育研究センター講師 (2022年9月) ・福岡大学精神科訪問看護講演会講師 (2023年7月) ・北九州市立大学公開講座講師 (2023年10月)
所属学会	日本心理学会 (1977年4月～現在に至る) 九州心理学会 (1977年4月～現在に至る) 日本生理心理学会 (1983年7月～現在に至る) International Organization of Psychophysiology (IOP) (2012年11月～現在に至る)
受賞歴	日本行動療法学会賞 (1996年4月) 九州心理学会第74回大会 優秀発表賞 (2013年11月) 九州心理学会第79回大会 優秀発表賞 (2018年12月) 福岡県立大学ベストティーチャー賞 (2021年3月)

所属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担当科目	〔食物栄養学科〕 ・調理学 ・調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱ、調理学実習Ⅲ 〔専攻科（介護福祉専攻）〕 ・家事の介護
専門分野	■ 調理学 ■ 栄養指導 ■ 栄養講話 ■ 特定健診特定保健指導
最終学歴	活水女子短期大学 専攻科食物専攻
学位	短期大学士（栄養学）
職歴	独立行政法人労働者健康福祉機構 九州労災病院 栄養管理室 栄養士 (昭和62(1987)年～昭和63(1988)年) 医療法人清陵会 南ヶ丘病院 栄養管理室長 管理栄養士 (平成元(1989)年～平成6(1994)年) みやこ町役場 総合福祉センター (旧 豊津町役場) 管理栄養士 (平成16(2004)年～平成18(2006)年) みやこ町役場 管理栄養士 (平成20(2008)年～平成27(2015)年) 東筑紫短期大学 食物栄養学科 講師 (平成28(2016)年4月～令和4(2022)年3月) 東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授 (令和4(2022)年4月～現在に至る)
教育上の業績	1) 担当教科『調理学』において栄養士実力認定試験の科目別正解率の向上を図る 備考) 全国平均：全受験者（4年制大学を含む） 短期大学平均：全受験者のうち2年制短期大学 学校平均：東筑紫短期大学 ・平成29年度 全国平均：23.3% 短期大学平均：21.8% 学校平均：25.1% 調理学正解率が、全国平均を上回った ・平成30年度 全国平均：60.6% 短期大学平均：58.2% 学校平均：59.5% 調理学正解率が、短期大学平均を上回った ・令和元年度 全国平均：42.0% 短期大学平均：38.0% 学校平均：40.0% 調理学正解率が、短大平均を上回った ・令和2年度 全国平均：69.6% 短期大学平均：66.0% 学校平均：73.2% 調理学正解率が、全国平均を上回った ・令和3年度 全国平均：35.5% 短期大学平均：34.0% 学校平均：34.2% 調理学正解率が、短期大学平均を上回った ・令和4年度 全国平均：60.36% 短期大学平均：58.36% 学校平均：64.18% 調理学正解率が、全国平均を上回った ・令和5年度 全国平均：62.17% 短期大学平均：60.36% 学校平均：69.14% 調理学正解率が、全国平均を上回った 2) 作成した教材 調理学ワークシート、オンラインパワーポイント資料 調理学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ実習献立、オンライン実習ビデオ、 g換算・調味%を使った献立変形演習資料
主な社会活動	1) 病院在籍中は病態別に個人栄養指導を行い病状の改善に繋げる。 (昭和62(1987)年～平成6(1994)年) 2) 乳幼児健診後、栄養指導及び離乳指導を行う。 (平成16(2004)年～平成27(2015)年) 離乳食教室において、離乳食の作り方や進め方の指導を行う。 (平成23(2011)年～平成27(2015)年) 3) 特定健診・特定保健指導に携わり、個人面談、その後のフォローを個別に行い疾病の発症



予防・重症化の予防と改善に繋げる。 (平成 20(2008)年～平成 27(2015)年)
4) 小学4年～6年生を対象に「仲良しクッキング」の調理実習及び、食育講話を行う 平成 24(2012)年からは、献立の提供と食生活改善推進員の指導を行う。 (平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
5) 住民の栄養相談、栄養指導、訪問指導を随時行い、食生活改善に繋げる。 (平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
6) 食生活改善推進員の教育として、年 6 回生活習慣病をテーマに講話と調理実習、 衛生管理指導を行う。 (平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
7) 毎年、食生活改善推進員養成講座を開講し、食生活改善推進員の増員を図る。 (平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
8) 平成 24 年度、食生活改善推進会「男性部」を養成し、発足する。 (平成 24(2012)年)
9) 地域の食育活動を食生活改善推進員と共に推進する (平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 歳半・3 歳児を対象に、食事の一部としての「おやつ」を作り、献立を添えて配布 ・ 「歯の健康フェア」にて「歯に良いおやつ」と「歯ッピーレシピ」を配布 ・ 保育所にて、「おやこの食育」推進の調理実習指導 ・ 地域の公民館への「バランス弁当」の配布と健康講話 ・ 献血の際、「貧血予防食」を作り、貧血予防の献立を添えて配布 ・ 防災訓練において、地産地消を目的とした炊き出しと、非常食のチラン作製配布 ・ 小学生の体験合宿にて「手作りこんにゃく」の実習指導を行う
10) 保育所にて、幼児期の母親を対象に、幼児期の食生活についての講話と、親子で作る 「おやつ」の調理実習を行う。 (平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
11) シルバー人材センター会員を対象に、年 2 回、生活習慣病の予防と改善をテーマにした講話 と、調理実習を行う。 (平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
12) 男性の食の自立と生活習慣病の予防と改善を目指し、「初心者男性料理教室」の講話と調理実 習を行う。 (平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
13) みやこ町「健康のつどい」にて、地域住民の生活習慣病予防と改善をはかる。 (平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「骨密度測定」・「体成分測定」・「味噌汁の塩分濃度測定」・「塩分閾値測定」・「肺年齢測定」を行い 食生活改善に繋げる ・ 「清涼飲料水に含まれるさとうの量」や「食品に含まれる食塩の量」、「1 日の野菜 350 g」の展示 と解説をする ・ 個別に栄養相談を受ける
14) 広報において、食の改善をテーマに原稿を書く。 (平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
15) 生活習慣病の予防と改善、重症化予防をはかるため、各種高齢者大学（たちばな大学・各地 区女性学級）の健康講話を行う。 (平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
16) 生活習慣病の予防と改善、重症化予防をはかるため、各行政区や各教室への「出張講座」を 随時行う（年間 50 回以上）。 (平成 27(2015)年)
<p><健康講話> 高血圧予防と食事、骨粗しょう症予防と食事、内臓脂肪と動脈硬化予防の食 事、バランスのとれた食事、熱中症予防と食事、特定健診の結果の見方と食 事等について、パワーポイントを作成し、講話する</p> <p><演 習> 自分に合ったエネルギー量、1 日のご飯量、1 日の油の量の計算</p> <p><測 定> 体成分測定、骨密度測定、塩分閾値測定</p>
17) 「地域検討ケア会議」にて事例に対しての食生活改善指導や訪問栄養指導を行う。 (平成 27(2015)年)
18) 特定健診データからデータの分析、それに基づく国保加入者の健康保持増進のための事業 計画として“データヘルス計画”を策定し、みやこ町の健康寿命の延伸を図る。 (平成 27(2015)年)
19) 周望学舎のシニアカレッジにて『自分の体を知って、食事でメンテ！バランスごはん』をテ ーマに、身体成分測定を行い、測定結果をもとに、食品の選び方や食べ方、バランスのと れた食事についての講座を行う。 (平成 28(2016)年)
20) 周望学舎大学祭にて『清涼飲料水に含まれる砂糖の量』をテーマに、平日頃慣れ親しんで



	飲んでいるジュース・缶コーヒー・栄養ドリンク等に、予想以上の砂糖量が含まれていることを視覚でとらえてもらうための媒体展示を行う。 (平成 28(2016)年)
	21) 平成 29 年度 子育て・親育ちの会にて『親子クッキング』をテーマに、認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園児の親子を対象に料理教室を行う。 また、大人と子供が同等量のさとうを摂取した時の血中のブドウ糖量について講話をする。 (平成 29(2017)年)
	22) 『北九州ゆめみらいワーク 2018』へ食物栄養学科として出展する この企画に参加し、本学科の授業や実習における取組を紹介することにより、栄養士への興味関心を持ってもらう。また、日本栄養士会とも連携し、栄養士活動についての理解や周知を図る。 (平成 30(2018)年)
	23) 平成 30 年度 子育て・親育ちの会にて『親子クッキング』をテーマに、認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園児の親子を対象に料理教室を行う。 また、子どもの「おやつ」について講話をする。 (平成 30(2018)年)
	24) ～未来を切り拓く人材育成事業～ 『バランスの良い食事について』 福岡県立京都高等学校定時制生徒を対象にした食育講座 食事の習慣と生活習慣病との関係について講話を行う。 (令和元(2019)年)
	25) 『北九州ゆめみらいワーク 2019』へ食物栄養学科として出展する この企画に参加し、本学科の授業や実習における取組を紹介することにより、栄養士への興味関心を持ってもらう また、管理栄養士・栄養士の活動先での取り組みや、栄養に関する地域イベントなどを支援する一環として『栄養ワンダー2019』を同時開催し、来場者に対する栄養に対する興味喚起を促すとともに、管理栄養士・栄養士の職能の認知と理解を図る。(令和元(2019)年)
	26) 令和元年度 子育て・親育ちの会にて『親子クッキング』をテーマに、認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園児の親子を対象に料理教室を行う。 また、幼児期の味覚と栄養バランスについて講話を行う。 (令和元(2019)年)
	27) 令和 4 年度 子育て・親育ちの会にて『離乳食の進め方 (食育)』をテーマに、認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園児の保護者を対象にオンラインにて講話を行う。 また、離乳食の進め方についての質疑応答をオンラインで行った。 (令和 4(2022)年)
	28) 令和 4 年度 京築地方保育協会保育士会食育推進部会にて『離乳食の進め方』をテーマに、京築地方保育協会所属の保育士・栄養士・調理員を対象にオンライン研修会の講師を承り、講話を行った。また、離乳食についての質疑応答をオンラインで行った。 (令和 4(2022)年)
	29) 『北九州ゆめみらいワーク 2022』へ食物栄養学科として出展する この企画に参加し、本学科の授業や実習における取組を紹介することにより、栄養士への興味関心を持ってもらい、入学希望者へとつなげる。 (令和 4(2022)年)
	30) 令和 5 年度 京築地方保育協会保育士会食育推進部会にて『食中毒予防と衛生管理』をテーマに、京築地方保育協会所属の保育士・栄養士・調理員を対象にオンライン研修会の講師を承り、講話を行った。また、衛生管理についての質疑応答をオンラインで行った。 (令和 5(2023)年)
	31) 『北九州ゆめみらいワーク 2023』へ食物栄養学科として出展する この企画に参加し、本学科の授業や実習における取組を紹介することにより、栄養士への興味関心を持ってもらい、入学希望者へとつなげる。 (令和 5(2023)年)
主な研究活動等	「包丁操作時の学習者と熟練者の包丁運動データの比較」(発表) 平成 30 年度 一般社団法人日本調理科学会 (平成 30(2018)年 8 月) (由良亮、浜野純、萩原勇人、梅林千恵子、藤岡美香、山本麻衣、楠瀬千春 : 日本調理科学会大会研究発表要旨集 30(0), 1, 2018、武庫川女子大学、平成 30 年 8 月 30-31 日。)
	「包丁操作時の学習者と熟練者の包丁運動データの比較」(論文) 食生活研究 39(6) (平成 31(2019)年) (由良亮、藤岡美香、山本麻衣、萩原勇人、梅林千恵子、浜野純、楠瀬千春 : pp 338 - 357。)



	<p>「キュウリ小口スライス包丁操作のモーションデータから得られる特徴量の機械学習による分類」 (発表) 2019年度 一般社団法人日本調理科学会 (令和元(2019)年8月) (由良亮、萩原勇人、梅林千恵子、浜野純、藤岡美香、山本麻衣、楠瀬千春 : 日本調理科学会大会研究発表要旨集 2019, 31, 2C-11, p. 57-、中村学園大学、令和元年8月26-27日。)</p> <p>「キュウリの小口スライス動作から見る包丁技術学習者と熟練者の動作の特徴」(発表) 2019年度 一般社団法人日本調理科学会 (令和元(2019)年8月) (由良亮、浜野純、萩原勇人、梅林千恵子、藤岡美香、山本麻衣、楠瀬千春 : 日本食品科学工学会大会講演集 66th, 203, 2019、藤女子大学、令和元年8月29-31日。)</p> <p>「包丁操作における特徴の見える化によるデータを活用した指導効果」(発表) 日本栄養学教育学会雑誌 4(Supplement) (令和元(2019)年9月) (山本麻衣、藤岡美香、楠瀬千春、萩原勇人、梅林千恵子、浜野純、由良亮 : pp17。)</p> <p>「6軸モーションセンサーによる包丁操作データを活用した操作特徴の見える化」(発表) 日本栄養学教育学会雑誌 4(Supplement) (令和元(2019)年9月) (由良亮、藤岡美香、山本麻衣、萩原勇人、梅林千恵子、浜野純、楠瀬千春 : pp16。)</p>
所属学会	日本栄養士会 (昭和62(1987)年～現在に至る) 日本栄養改善学会 (平成28(2016)年～現在に至る)
受賞歴	日本栄養士会 栄養改善功績表彰 (平成26(2014)年) 食生活研究会 最優秀論文賞受賞 「包丁操作時の学習者と熟練者の包丁運動データの比較」(論文) (令和2(2020)年)

アベ アキエ
阿部 亜希恵 AKIE Abe 講師

所 属	東筑紫短期大学 食物栄養学科
担 当 科 目	<p>[食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養指導論Ⅰ、栄養指導論Ⅱ ・栄養指導実習Ⅰ ・栄養学実習 ・給食管理実習Ⅱ ・フードスペシャリスト論 ・キャリアアップ演習Ⅰ <p>[保育学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの食と栄養Ⅰ、子どもの食と栄養Ⅱ
専 門 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ■ 栄養教育 ■ 栄養指導 ■ 特定保健指導 ■ 健康運動指導
最 終 学 歴	九州保健福祉大学 通信教育部社会福祉学部 臨床福祉学科
学 位	学士 (社会福祉学)
職 歴	<p>航空自衛隊入隊 (昭和 58(1983)年 3 月～昭和 60(1985)年 6 月)</p> <p>学校法人鶴岡学園 北海道文教短期大学 栄養士 (平成 9(1997)年 4 月～平成 11(1999)年 3 月)</p> <p>北海道千歳市臨時職員 (栄養士) (平成 11(1999)年 4 月～平成 13(2001)年 3 月)</p> <p>株式会社 九州ビット 栄養士 (平成 13(2001)年 8 月～平成 14(2002)年 5 月)</p> <p>医療法人優和会 古賀病院 管理栄養士・健康運動指導士 (平成 14(2002)年 6 月～平成 15(2003)年 3 月)</p> <p>医療法人北九州病院 北九州小倉病院 管理栄養士 (平成 15 (2003) 年 3 月～平成 17 (2005) 年 9 月)</p> <p>医療法人北九州病院 北九州小倉病院 主任 (管理栄養士) (平成 17 (2005) 年 10 月～平成 18 (2006) 年 2 月)</p> <p>医療法人北九州病院 北九州八幡東病院 主任 (管理栄養士) (平成 18 (2006) 年 2 月～平成 24 (2012) 年 9 月)</p> <p>医療法人北九州病院 北九州八幡東病院 次長 (管理栄養士) (平成 24 (2012) 年 10 月～平成 26 (2014) 年 4 月)</p> <p>特定医療法人北九州病院 北九州津屋崎病院 次長 (管理栄養士) (平成 26 (2014) 年 5 月～平成 28 (2016) 年 3 月)</p> <p>特定医療法人北九州病院 北九州小倉病院 次長 (管理栄養士) (平成 28 (2016) 年 4 月～平成 28 (2016) 年 9 月)</p> <p>特定医療法人北九州病院 北九州小倉病院課長 (管理栄養士) (平成 28 (2016) 年 10 月～令和元 (2016) 年 9 月)</p> <p>特定医療法人北九州病院 北九州総合病院 課長 (管理栄養士) (令和元(2019)年 10 月～令和 2(2020)年 3 月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 講師 (令和 2(2020)年 4 月～現在に至る)</p>
教育上の業績	<p>○西日本看護専門学校 看護学科 非常勤講師「栄養学」担当 (平成 26(2014)年 4 月～令和 2(2019)年 3 月)</p> <p>西日本看護専門学校において看護学科 2 年生を対象に、「栄養学」の講義を担当。第一優先としては国家試験受験に向けた内容を主体に講義を行ってはいるが、臨床現場で役立つ看護師育成のために、教科書では知ることができない授業を展開および調理実習を担当した。</p> <p>○パソコンを使用した献立作成の導入 (令和 4(2022)年 4 月～現在に至る)</p> <p>栄養学実習の授業における献立作成について、従来の電卓を使用した「手計算」から、パソコンでの「栄養価計算ソフト」を使用した献立作成を導入した。導入にあたり、短時間で作成技術を身につけられるよう、簡便なマニュアルを作成した。この導入により、学生の献立作成の精度向上につなげた。</p>
職務上の業績	○調理職員の継続的採用の構築 (平成 24(2012)年度～令和元(2019)年度)



北九州八幡東病院において調理職員の退職都度採用をしていたが、年度初めに調理職員を採用できるよう高校の就職担当教師へアプローチを行い、調理師資格を持った高校生への採用を導入した。
2年連続採用を行い、3年目からは北九州病院グループ全体に派生し、病院本部にて指定校制度が定着している。その基盤づくりに貢献した。

○濃厚流動食統括管理制度の責任者 (平成26(2014)年4月～令和2(2020)年3月)
各社から様々な濃厚流動食や栄養補助食品が販売されているが、それらは食品であり医薬品ではないことから、選択は管理栄養士が行うべきであることを、医師や薬剤師に説明を行い、患者に適した製品の選択は管理栄養士に権限を与えてもらい、病院グループで使用可能な製品の選択(成分内容・機能別特長)から、スケールメリットを活かした価格への入札体制、統括管理に伴う規定の作成などを行う制度を前任者が構築した。その制度の継続のための責任者として業務を遂行した。

○ヘルパー向け調理実習 (平成28(2016)年9月～令和2(2020)年3月)
北九州ヘルスケアサービスヘルパー向けに減塩食や嚥下食など毎年テーマを変え講義および調理実習を実施している。

○人間ドック対象者への栄養指導方法の構築 (平成29(2017)年4月～令和2(2020)年3月)
北九州小倉病院において、人間ドックの栄養指導を実施しているが、入院ドックにおいては全体に向けた講義を実施していた。人間ドックに機能評価を受けるにあたり、個別性が重視され、入院ドック受診者における個別栄養指導方法を構築した。

○特定保健指導当日初回面談の導入 (平成29(2017)年4月～令和2(2020)年3月)
小倉病院において、市から依頼される特定保健指導を実施していたが、それに加え、2017年より協会健保からの依頼を受けるようになった。管理栄養士の限られたマッパリの中で、保健指導の件数を上げるため、当日に初回面談を行うシステムを構築した。

主な研究活動

【学術論文】

1. Modulatory effects of Bifidobacterium longum BB536 on defecation in elderly patients receiving enteral feeding. (共著)

(経腸栄養管理の高齢患者の排便に対するビフィズス菌 BB536 の調節効果)

J.Kondo, A.Abe, K. Shimizu, K.Ogawa, T.Taeko

World Journal of Gastroenterology April 14,2013;19(14):2162-2170 (2013.4)

(概要)

経腸栄養で管理している高齢者を対称に、試験1)ではプラセボ群とビフィズス菌 BB536 を16週間摂取した群の2群に分け、試験2)ではビフィズス菌高用量群と低用量群とプラセボ群の3群に分け、便中細菌叢と便性状の比較検討結果をまとめた。

2. 「二次性サルコペニア肥満患者に対するリハビリテーションと

栄養補助飲料摂取の併用効果」 (共著)

近藤順子、阿部亜希恵、岡田昌子、川添恵理子、吉岡承美、古谷恭子、白幡 聡

東筑紫短期大学 研究紀要 48、299-307、2017 (平成29(2017)年12月)

(概要)

経腸栄養を施行されている二次性サルコペニア肥満患者を対象に、ベッドサイドリハビリテーションにビタミンDとBCAAの摂取を併用することで骨格筋の減少を抑えることが可能であるか、介入試験の結果をまとめた。

2.PCを導入した献立作成の実践

阿部亜希恵

東筑紫短期大学 研究紀要 54、247-257、2023 (令和5(2023)年12月)

(概要)

献立作成の授業において、従来の「手計算」の方法から、PCでの「栄養価計算ソフト」を用いた方法を取り入れた。その取り組みの経緯及び実践についてまとめた。

【学会発表】

1. 「高齢者に対するビフィズス菌長期投与による免疫賦活作用と感染防御効果」

第57回日本栄養改善学会学術総会 (平成22(2010)年9月)

(概要)

経腸栄養で管理している高齢者を2群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を5週間摂取した群の体温、便性状等の比較検討結果をまとめた。



2. 「プロバイオティクビフィズス菌の長期摂取による高齢患者の便通性状および生体防御に対する影響の検討」

第14回日本病態栄養学会年次学術集会 (平成23(2011)年1月)

(概要)

経管栄養で管理している高齢者を2群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を16週間摂取した群の体温、便性状、免疫指標等の比較結果を報告。

3. 「プロバイオティクビフィズス菌の摂取による高齢患者の便中細菌叢および便通性状に対する影響の検討」

第15回日本病態栄養学会年次学術集会 (平成24(2012)年1月)

(概要)

経管栄養で管理している高齢者を2群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を16週間摂取した群の便中細菌叢と便性状の比較検討結果をまとめた。

4. Effects of the enteral nutrition containing probiotic Bifidobacterium longum BB536 on bowel movement and immunological parameters of the elderly patients

第16回国際栄養士会議 (平成24(2012)年9月)

(概要)

経管栄養で管理している高齢者を2群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を16週間摂取した群の体温、便性状、免疫指標等の比較結果を報告。

5. 「ビフィズス菌 BB536 の長期投与が経腸栄養高齢患者の便性状および腸内細菌叢におよぼす影響」

第28回日本静脈経腸栄養学会学術集会 (平成25(2013)年2月)

(概要)

経管栄養で管理している高齢者を3群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 中用量群と高用量群の体温、便性状、免疫指標等の比較結果および腸内細菌叢への影響を報告。

6. 「経管栄養管理の高齢者におけるサルコペニア肥満の実態調査」

第29回日本静脈経腸栄養学会学術集会 (平成26(2014)年2月)

(概要)

管栄養で管理している高齢者において、寝たきりの不活動で体重増加、筋肉量の低下、体脂肪の増加による、サルコペニア肥満の実態調査を行い発表した。

7. 「寝たきり状態の高齢者におけるサルコペニア肥満の実態調査報告」

第18回日本病態栄養学会年次学術集会 (平成27(2015)年1月)

(概要)

経管栄養で栄養管理している高齢者において、サルコペニア肥満の実態調査を行い、摂取栄養量との関連について発表した。

8. 「サルコペニア肥満患者に対するリハビリテーションと栄養補助食品摂取の併用効果」

第31回日本静脈経腸栄養学会年次学術集会 (平成28(2016)年2月)

(概要)

経管栄養で栄養管理している高齢者において、サルコペニア肥満患者に対しリハビリテーションと栄養補助食品を摂取した効果について発表した。

主な社会活動

・NADAC 研修会

「段階嚥下食とチーム医療

～食べてもらってなんぼです～」講演

(平成22(2010)年12月11日)

・北九州八幡東病院 家族会

「当院の栄養管理の取り組みについて」講演

(平成26(2014)年3月8日)

・北九州津屋崎病院 家族会

「食事と栄養 ～生活習慣病予防対策～」講演

(平成26(2014)年10月11日)

・九州女子大学

「運動療法と栄養を指導する管理栄養士としての役割」講演

(平成27(2015)年6月23日)

・桜丘校区健康講座

「健康で老いるための5つのポイント “メタボとロコモ” 予防の食事」講演

(平成28(2016)年9月24日)



	<ul style="list-style-type: none">・北九州病院ヘルスケアサービスヘルパー対象 「訪問看護に必要な栄養知識と調理実演」講演および調理実習訪問看護 (平成 28(2016)年 9 月～令和 2(2020)年 3 月)
	<ul style="list-style-type: none">・北九州小倉病院 家族会 「当院栄養管理科取り組みについて」講演 (平成 29(2017)年 7 月 28 日)
	<ul style="list-style-type: none">・北九州小倉病院 家族会 「当院の栄養管理と豆知識 (栄養ワンダー)」講演 (平成 30(2018)年 7 月 21 日)
	<ul style="list-style-type: none">・北九州小倉病院 家族会 「栄養豆知識 (栄養ワンダー)」講演 (令和元(2019)年 7 月 6 日)
	<ul style="list-style-type: none">・北九州病院グループフィジカルセミナー 「食事与健康を作る ～腸から健康に～」講演 (令和元(2019)年 9 月 7 日)
	<ul style="list-style-type: none">・福岡県栄養士会 栄養指導等ボランティア活動 (平成 13(2001)年 4 月～現在に至る)
	<ul style="list-style-type: none">・北九州 CDE の会 栄養指導等ボランティア活動 (平成 21(2009)年 4 月～現在に至る)
	<ul style="list-style-type: none">・北九州市小倉北区桜丘校区 健康づくり部会ボランティア参加 (平成 28(2016)年 4 月～令和元(2019)年 9 月)
	<ul style="list-style-type: none">・小倉歯科医師会在宅歯科医療推進に関わる事業 「栄養と感染」について執筆 (令和 2(2020)年 11 月)
所 属 学 会	<ul style="list-style-type: none">日本栄養士会 (平成 9(1997)年 4 月～現在に至る)NPO 法人 日本健康運動指導士会 (平成 13(2001)年 8 月～現在に至る)日本栄養治療学会 (旧日本臨床栄養代謝学会) (平成 19(2007)年 4 月～現在に至る)日本糖尿病協会 (平成 21(2009)年 4 月～現在に至る)北九州 CDE の会 (平成 21(2009)年 4 月～現在に至る)
受 賞 歴	<ul style="list-style-type: none">全国栄養士養成施設協会会長賞表彰 (平成 9(1997)年 3 月)特定医療法人北九州病院 10 年永年勤続表彰 (平成 25(2013)年 5 月)福岡県栄養士大会 第 39 回栄養改善学会 功労者表彰 (平成 25(2013)年 10 月)



学校法人 東筑紫学園

東筑紫短期大学

HIGASHI CHIKUSHI JUNIOR COLLEGE

はたの
波多野 侂

HATANO rei

実習助手

所 属	東筑紫短期大学	食物栄養学科
担 当 科 目	・臨床栄養学実習 I ・臨床栄養学実習 II ・給食管理実習 I ・ ・ ・	
最 終 学 歴	九州栄養福祉大学	食物栄養学科 卒業
職 歴	東筑紫短期大学 食物栄養学科 実習助手	(2023年4月～現在に至る)



学校法人 東筑紫学園

東筑紫短期大学

HIGASHI CHIKUSHI JUNIOR COLLEGE

マツイ リコ
松井 莉子

MATSUI Riko

実習助手

所属	東筑紫短期大学	食物栄養学科
担当科目	[食物栄養学科] ・栄養指導実習Ⅰ ・栄養指導実習Ⅱ ・栄養教育実習 ・給食管理実習Ⅱ	
専門分野	■	
最終学歴	九州栄養福祉大学	食物栄養学部 食物栄養学科 卒業
学位		
職歴	中間市立中間西小学校 講師(栄養教諭) 苅田町立南原小学校 講師(栄養教諭) 東筑紫短期大学 食物栄養学部 食物栄養学科 実習助手	(2021年4月～2023年3月) (2023年4月～2024年3月) (2024年4月～現在に至る)